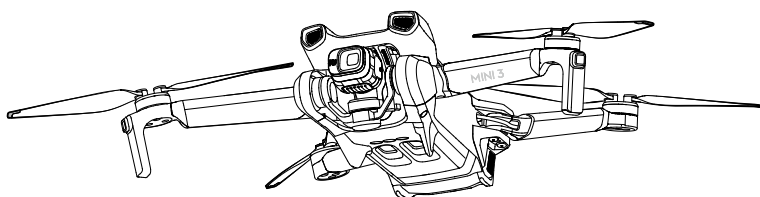




ユーザーマニュアル

v1.2

2024.01



キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探することができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。



トピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。



本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI™ Mini 3をお使いになる前に、以下の資料をお読みください。

1. 安全ガイドライン
2. クイックスタートガイド
3. ユーザーマニュアル

DJIのウェブサイトにあるすべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、安全に関するガイドラインをお読みください。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするかQRコードをスキャンすると、DJI Mini 3のチュートリアルビデオを視聴でき、DJI Mini 3を安全にお使いいただく方法を知ることができます：



<https://s.dji.com/guide43>

DJI Flyアプリのダウンロード

飛行中は、必ずDJI Flyアプリを使用してください。上記のQRコードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。

- ⚠
- DJI RC送信機には、DJI Flyアプリがすでにインストールされています。DJI RC-N1送信機をお使いの場合、DJI Flyアプリをモバイル端末にダウンロードする必要があります。
 - Android版のDJI Flyは、Android v7.0以降で動作します。iOS版のDJI Flyは、iOS v11.0以降で動作します。

* より安全にご使用いただくために、飛行中にこのアプリに接続、ログインしていない場合は、飛行高度が30 m、飛行範囲が50 mに制限されます。これはDJI FlyおよびDJIの機体に対応するすべてのアプリに適用されます。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）のダウンロード

<https://www.dji.com/mini-3/downloads>から、DJI ASSISTANT™ 2（一般向けドローン用）をダウンロードしてください。

- ⚠
- この製品の動作環境温度は、-10℃～40℃で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃～125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に動作させ、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。

目次

本マニュアルの使用方法	1
凡例	1
初めてのフライト前にお読みいただくもの	1
チュートリアルビデオ	1
DJI Flyアプリのダウンロード	1
DJI Assistant 2（一般向けドローン用）のダウンロード	1
製品の特徴	5
はじめに	5
初めての使用にあたって	5
各部名称	8
機体	12
フライトモード	12
機体ステータスインジケーター	13
クイック転送	14
RTH（Return-to-Home：帰還）	15
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム	17
インテリジェントフライトモード	19
フライトレコーダー	20
プロペラ	20
インテリジェントフライトバッテリー	22
ジンバル&カメラ	29
送信機	32
DJI RC	32
DJI RC-N1	40
DJI Flyアプリ	47
ホーム	47
カメラビュー	47

飛行	53
飛行環境の条件	53
責任ある機体操作	54
飛行制限	54
フライト前チェックリスト	56
自動離陸／自動着陸	56
モーターの始動と停止	57
飛行テスト	58
付録	59
仕様	59
互換性	65
ファームウェア更新	66
フライト後チェックリスト	67
メンテナンスについての指示	67
トラブルシューティングの手順	68
リスクと警告	68
廃棄処分について	69
C0認証	69
アフターサービス情報	71

製品の特徴

本セクションではDJI Mini 3について紹介し、機体と送信機の各部名称について説明します。

製品の特徴

はじめに

DJI Mini 3は、249 g未満の超軽量折りたたみ式デザインを採用しています。下方ビジョンシステムと赤外線検知システムを搭載したDJI Mini 3は、屋内だけでなく屋外でもホバリングと飛行を行い、自動的に帰還 (Return-to-Home:RTH)することができます。インテリジェント フライトバッテリーを使用した場合の機体の最大飛行時間は38分、インテリジェント フライトバッテリー Plusを使用した場合の最大飛行時間は51分です。

DJI Mini 3は、DJI RC送信機やDJI RC-N1送信機に対応しています。詳細については、「送信機のセクション」を参照してください。

主な機能

ジンバル&カメラ：完全な安定性を実現する3軸ジンバルと1/1.3インチセンサーカメラを搭載し、DJI Mini 3は4K動画と48MPの写真撮影が可能です。また、DJI Flyでワンタッチでランドスケープモード（横位置撮影）とポートレートモード（縦位置撮影）を切り替えることもできます。

動画伝送：DJI Mini 3は、DJIの長距離伝送技術OCUSYNC™ 2.0を搭載し、その最大伝送距離は10 km（日本国内では6 km）を誇り、最大720p/30fpsの映像を機体からDJI Flyアプリへ送信し、表示します。送信機は2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作し、自動的に最適な伝送チャンネルを選択できます（日本国内は2.4 GHzのみ利用可）。

インテリジェント フライトモード：クイックショットやパノラマなどのインテリジェント フライトモードをご利用いただけます。また、クイック転送を使用することで、写真や動画のダウンロードをより簡単かつ効率的に行えます。

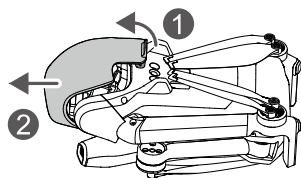
- △
- 最大飛行時間は、21.6 km/hの一定速度で、無風状態の海拔0 m付近を飛行させてテストしました。
 - 送信機は、電波干渉のない広くて開けた場所で、高度約120 mで最大伝送距離（FCC準拠時）に達します。
 - 5.8 GHzの周波数は、（日本を含む）一部の地域では対応していません。この周波数帯は、これらの地域では自動的に無効になります。現地の法律および規制を、必ず順守してください。
 - インテリジェント フライトバッテリー Plusは、一部の国と地域でのみご利用いただけます。詳細については、公式DJIオンラインストアをご覧ください。
 - 機体をインテリジェント フライトバッテリー Plusと組み合わせて使用した場合、最大離陸重量は249 gを超えます。離陸重量に関する現地の法律および規制を、必ず順守してください。

初めてのご使用にあたって

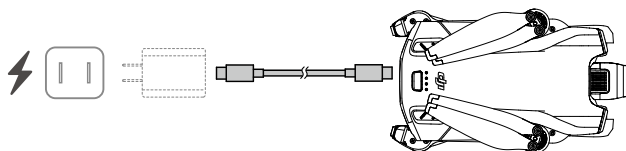
機体の準備

梱包時には、機体のすべてのアームは折りたたんだ状態です。以下の手順に従って、機体を展開してください。

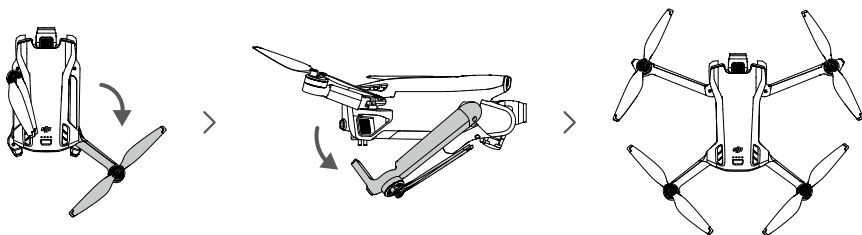
1. カメラからジンバル プロテクターを取り外します。



2. すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで出荷されています。初めて使用する際は、USB充電器を機体のUSB-Cポートに接続して、インテリジェント フライトバッテリーを充電してアクティベーションしてください。



3. 後方のアーム、前方のアーム、すべてのプロペラブレードの順に展開します。



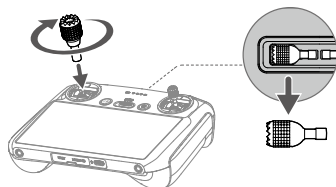
- DJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用することをお勧めします。
 - 機体の充電ポートの最大充電電圧は15Vです。
 - ジンバル プロテクターを取り外し、すべてのアームを広げてから、機体の電源を入れてください。この手順に従わないと、機体の自己診断テストに影響が出る恐れがあります。
 - 機体を使用しないときは、ジンバル プロテクターを取り付けてください。ジンバル プロテクターを再度取り付ける場合、すべてのアームが折りたたまれていることを確認してから、行ってください。まずカメラを回転させて、水平に置き正面を向いた状態にします
- ①、次にプロテクター上部のラッチを機体の開口部に挿入し②、2本の位置決めピンを機体下部の穴に挿入します③。



送信機の準備

以下の手順で、DJI RC送信機を準備してください。

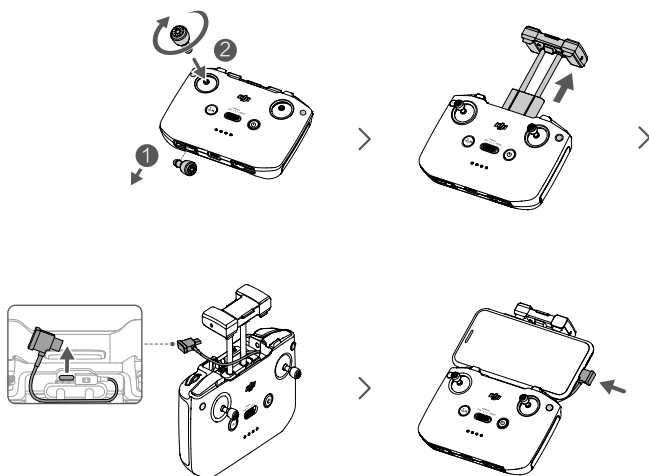
1. 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。



2. 初めて使用する場合、送信機のアクティベーションが必要です。アクティベーションする際は、インターネットへの接続が必要になります。電源ボタンを押した後、再度長押しして送信機の電源を入れます。画面の指示に従って、送信機をアクティベーションします。

以下の手順で、DJI RC-N1送信機を準備してください。

1. 操作スティックを収納スロットから取り外し、送信機に取り付けます。
2. モバイル端末ホルダーを引き出します。ご使用のモバイル端末のポートの種類に基づき、適切な送信機ケーブル（Lightningコネクターケーブル、Micro USBケーブル、およびUSB-Cケーブルを製品に同梱）を選択します。ご使用のモバイル端末をホルダーに装着し、送信機ロゴのない方のケーブルの端をモバイル端末に接続します。モバイル端末がしっかりと固定されていることを確認してください。



⚠️ • Androidモバイル端末の使用時にUSB接続プロンプトが表示された場合は、「充電のみ」を選択してください。それ以外を選択すると、接続が失敗する場合があります。

DJI Mini 3 機体のアクティベーション

初めて使用する前に、DJI Mini 3をアクティベーションする必要があります。機体と送信機の電源を入れた後、DJI Flyで画面上の指示に従ってDJI Mini 3をアクティベーションします。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。

機体と送信機の紐付け

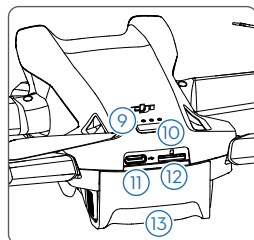
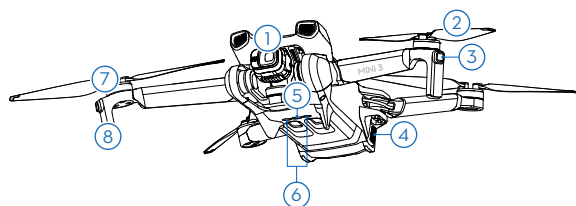
アクティベーション後、機体は送信機に自動で紐づけされます。この自動紐づけに失敗した場合は、DJI Flyの画面上の指示に従って、最適な保証サービスを受けるために機体と送信機を紐づけしてください。

ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Flyにプロンプトが表示されます。最適なユーザーエクスペリエンスを得るために、プロンプトが表示されたら、ファームウェアを更新してください。

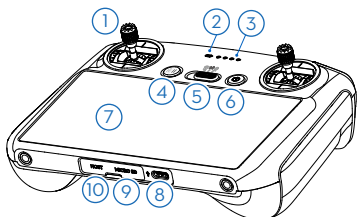
各部名称

機体



- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. ジンバル&カメラ | 8. ランディングギア（アンテナ内蔵） |
| 2. プロペラ | 9. バッテリー残量LED |
| 3. 機体のステータスLED | 10. 電源ボタン |
| 4. バッテリーバックル | 11. USB-Cポート |
| 5. 下方ビジョンシステム | 12. microSDカードスロット |
| 6. 赤外線検知システム | 13. インテリジェントフライトバッテリー |
| 7. モーター | |

DJI RC送信機



1. 操作スティック

操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。DJI Flyのフライトコントロールモードを設定します。

2. ステータスLED

送信機の状態を示します。

3. バッテリー残量LED

送信機の現在のバッテリー残量を表示します。

4. 飛行一時停止／RTH (Return-to-Home) ボタン

ボタンを1回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います (GNSSまたはビジョンシステムが利用可

な場合のみ)。長押しすると、RTHを起動します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。

5. フライトモードスイッチ

Cine (シネ)、Normal (ノーマル)、Sport (スポーツ) の3種類のフライトモードを切り替えます。

6. 電源ボタン

ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン/オフを切り替えられます。送信機の電源が入っているときに、1回押すと、タッチ画面のオン/オフを切り替えられます。

7. タッチ画面

画面をタッチして、送信機を操作します。タッチ画面は防水ではありません。慎重に操作してください。

8. USB-Cポート

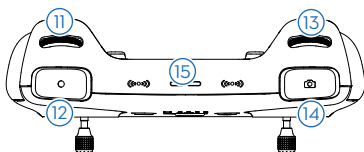
送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

9. microSDカードスロット

microSDカードを挿入します。

10. USB-Cコネクター

USB-Cヘッドホンを接続します。



11. ジンバルダイヤル

カメラのチルトを操作します。

12. 録画ボタン

1回押すと、録画を開始/停止します。

13. カメラ制御ダイヤル

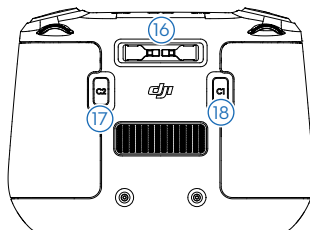
ズーム制御用です。

14. フォーカス/シャッターボタン

ボタンを半押しするとオートフォーカスが作動し、全押しすると写真を撮影します。

15. スピーカー

音声を出力します。



16. 操作スティック収納スロット

操作スティックの収納用です。

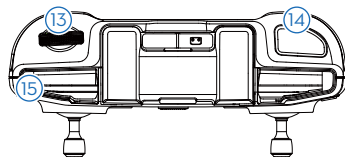
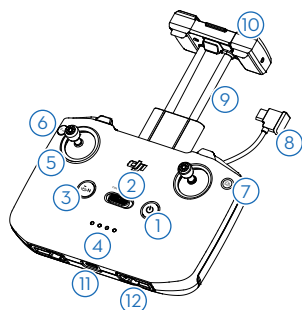
17. カスタムボタンC2

ランドスケープモード (横向き撮影) とポートレートモード (縦向き撮影) を切り替えます。この機能はDJI Flyで設定できます。

18. カスタムボタンC1

ジンバルの再センタリングとジンバルを下方に向ける機能を切り替えます。この機能はDJI Flyで設定できます。

DJI RC-N1 送信機



1. 電源ボタン

ボタンを 1 回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。1 回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。

2. フライトモードスイッチ

スポーツ、ノーマル、シネモードを切り替えます。

3. 飛行一時停止／RTH (Return-to-Home) ボタン

ボタンを 1 回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います（GNSS またはビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。長押しすると、RTH を起動します。再度押すと、RTH はキャンセルされます。

4. バッテリー残量 LED

送信機の現在のバッテリー残量を表示します。

5. 操作スティック

操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。DJI Fly のフライトコントロールモードを設定します。

6. カスタムボタン

このボタンの機能は DJI Fly で設定できます。1 回押すと、ジンバルを再センタリングする、もしくはジンバルを下方に向けます（デフォルト設定）。

7. 写真／動画の切り替え

1 回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

8. 送信機ケーブル

送信機ケーブルを介して動画リンクするモバイル端末に接続します。モバイル端末のポートの種類に合ったケーブルを選択してください。

9. モバイル端末ホルダー

モバイル端末を送信機にしっかりと取り付けます。

10. アンテナ

機体制御信号と無線映像信号を送信します。

11. USB-C ポート

送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

12. 操作スティック収納スロット

操作スティックの収納用です。

13. ジンバルダイヤル

カメラのチルトを操作します。カスタムボタンを長押ししたまま、ジンバルダイヤルを使用するとズームを制御できます。

14. シャッター／録画ボタン

1 回押すと、写真を撮影するか、録画を開始／停止します。

15. モバイル端末スロット

モバイル端末を固定します。

機体

DJI Mini 3は、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、ビジョンシステム、赤外線検知システム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

機体

DJI Mini 3は、フライトコントローラー、動画ダウンリンクシステム、下方ビジョンシステム、赤外線検知システム、推進システム、インテリジェント フライトバッテリーで構成されています。

フライトモード

DJI Mini 3には、3つのフライトモード、加えて特定のシナリオで機体のモードが切り替わる第4のフライトモードがあります。送信機のフライトモードスイッチを使用して、フライトモードを切り替えることができます。

ノーマルモード（Nモード）：機体は、GNSSと下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムを利用して、機体自身の位置を測位し、安定化します。GNSS信号が強いときには機体はGNSSを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。GNSSが弱い状態だが、周囲が十分に明るく、他の環境条件が十分揃っている場合、機体は下方ビジョンシステムを使用します。周囲が十分に明るく、その他の環境条件が十分揃っている場合、最大チルト角度は25°で、最大飛行速度は10 m/sです。

スポーツモード（Sモード）：スポーツモードでは、機体はGNSSと下方ビジョンシステムを使用して、測位します。スポーツモードでは、敏捷性と速度に対する機体の反応性が最適化され、操作スティックの動きへの反応がより機敏になります。最大飛行速度は16 m/sになります。

シネモード（Cモード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。最大飛行速度は6 m/sです。

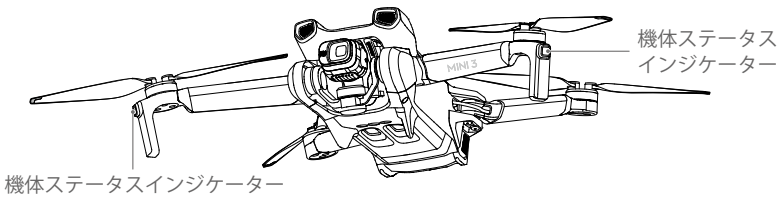
下方ビジョンシステムが利用できないか無効になっている場合、かつGNSS信号が弱いかコンパスが干渉を受けている場合、機体は自動的に姿勢モード（ATTIモード）に切り替わります。ATTIモードでは、機体は周囲環境の影響をより受けやすくなります。風などの環境的要因により、水平方向に移動する可能性があります。インテリジェント フライトモードまたはRTH機能は使用できません。機体は自動的に測位またはブレーキをかけることができず、潜在的な事故のリスクが増加します。ATTIモードへ切り替わらないように、GNSS信号が弱い、またはあまり明るくない環境での飛行を避け、閉鎖空間で飛行させないでください。



- スポーツモードでは、機体の最大速度が向上し、制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも30 m必要です。
- スポーツモードまたはノーマルモードでの機体の上昇時と下降時は、無風状態の場合で、少なくとも10 mの制動距離が必要です。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かただけでも、機体は大きく移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。
- 機体が左方または右方に飛行しているときは、撮影中の機体の安定性を確保するため、飛行速度と飛行姿勢の両方が制限されます。ジンバルのチルトが-90°のときに制限が最大になります。強風の場合は、機体の風圧抵抗を向上させるために速度制限を無効にします。その結果、撮影中にジンバルが振動することがあります。
- スポーツモードで録画した動画は、軽微な映像揺れが発生する場合があります。

機体ステータスインジケータ

DJI Mini 3に、機体ステータスインジケータが2つ搭載されています。



機体ステータスインジケータの詳細については、下表を参照してください。

機体ステータスインジケータの説明

正常の状態		
.....	紫色にゆっくり点滅	ウォーミングアップ
.....	赤色、緑色、黄色が交互に点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行中
.....	緑色にゆっくり点滅	GNSSが有効
x2	定期的に緑色に2回点滅	下方ビジョンシステムが有効
.....	黄色にゆっくり点滅	GNSSおよび下方ビジョンシステムが無効 (ATTIモードが有効)
.....	ゆっくりした青色点滅	Wi-Fi接続とOcuSync 2.0動画伝送接続の切替中
x2	定期的に青色に2回点滅	Wi-Fi接続に切り替わり、モバイル端末への接続を待機中
——	青色点灯	Wi-Fi接続に切り替わり、モバイル端末へ接続済
.....	青色にすばやく点滅	Wi-Fi接続に切り替わり、高速ダウンロード中
——	赤色点灯	Wi-Fi接続への切り替え失敗
.....	赤色にゆっくり点滅	[ドローンを探す]機能の使用中にESCがピープ音を鳴らしている
警告の状態		
.....	黄色にすばやく点滅	送信機の信号ロスト
.....	赤色にゆっくり点滅	バッテリー残量低下
.....	素早い赤色点滅	バッテリー残量極度に低下
.....	定期的に赤色に点滅	IMUエラー
——	赤色点灯	重大なエラー
.....	赤色と黄色に交互に点滅	コンパスキャリブレーションが必要

クイック転送

DJI Mini 3はWi-Fi経由でモバイル端末に直接接続できるため、DJI RC-N1送信機を使わず、DJI Flyを介して、機体からモバイル端末に写真や動画をダウンロードできます。


最大25 MB/sの伝送速度で、より高速かつ便利なダウンロードを体験できます。


使用方法

方法1：モバイル端末がDJI RC-N1送信機に接続されていない場合

1. 機体の電源を入れて、機体の自己診断テストが完了するまで待ちます。電源ボタンをすばやく3回押すと、クイック転送モードに切り替わります。切り替わると、機体ステータスLEDが青色に点滅します。
2. モバイル端末でBluetoothとWi-Fiが有効になっていることを確認してください。DJI Flyを起動すると、機体に接続するためのプロンプトが表示されます。
3. [接続]をタップします。接続に成功すると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。初めてモバイル端末を機体に接続する時、電源ボタンを2秒間長押しして、接続を確定する必要があります。



方法2：モバイル端末がDJI RC-N1送信機に接続されている場合

1. 機体がDJI RC-N1送信機を介してモバイル端末に接続されており、モーターが始動していないことを確認してください。
2. モバイル端末でBluetoothとWi-Fiを有効にします。
3. DJI Flyアプリを起動して再生に進み、右上隅のをタップします。DJI Flyアプリのプロンプトに従って、クイック転送モードに切り替えます。切り替えが完了したら、機体上のファイルを高速ダウンロードします。



-  • 最大ダウンロードレートは、5.8 GHz周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz周波数帯域とWi-Fi接続に対応したデバイスを、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHzが現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は5.8 GHzの周波数帯域に対応しないか、強い干渉を受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は2.4 GHzの周波数帯域を使用して最大ダウンロードレートが6 MB/秒に低下します。
- クイック転送を使用する前に、モバイル端末でBluetoothとWi-Fiおよび位置情報サービスが有効になっていることを確認してください。
 - クイック転送を使用する場合、接続するためにモバイル端末の設定ページでWi-Fiパスワードを入力する必要はありません。DJI Flyを起動すると、機体に接続するためのプロンプトが表示されます。
 - 干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetoothスピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。

RTH（Return-to-Home：帰還）

Return to Home (RTH) 機能により、測位システムが正常に機能しているとき、機体は最後に記録されたホームポイントに戻されます。以下の3つのRTHモードがあります。スマートRTH、ローバッテリーRTH、フェールセーフRTHです。スマートRTHが開始されるか、機体がローバッテリーRTHに入るか、または送信機と機体との信号が失われると、機体はRTHが起動して、自動的にホームポイントに戻り、着陸します。動画伝送が失われた場合などの他の異常が発生した場合にも、RTHが起動します。

	GNSS	説明
ホーム ポイント	 10	デフォルトのホームポイントとして記録されるのは、強いまたはやや強いGNSS信号（白いアイコンで表示）を機体が最初に受信した場所です。飛行前に、ホームポイントが正常に記録されるまで待つことをお勧めします。ホームポイントが記録されると、DJI Flyにプロンプトが表示されます。ホームポイントは、機体が強いはまたはやや強い別のGNSS信号を受信しているときに限り、離陸前に更新できます。信号が弱い場合は、ホームポイントは更新されません。飛行中にホームポイントを更新する必要がある場合（ユーザーの位置が変更された場合など）、DJI Flyの[システム設定]の[安全]でホームポイントを手動で更新できます。

スマートRTH

十分に強いGNSS信号を受信している場合は、スマートRTHを使用して機体をホームポイントに戻すことができます。DJI Flyのをタップするか送信機のRTHボタンを長押しすることで、スマートRTHを起動します。DJI Flyでをタップするか送信機のRTHボタンを押すことで、スマートRTHを終了できます。

ローバッテリーRTH

インテリジェント フライトバッテリーの残量が低すぎて、帰還に必要な電力がない場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。電力がなくなると、機体は墜落し、機体が損傷したり、その他の事故を引き起こす可能性があります。

電力不足による不必要な危険を回避するために、DJI Mini 3は、現在地に基づいて、バッテリー残量が帰還するのに十分であるかどうかを判断します。バッテリー残量が低下しても、RTHを完了するのに十分な残量がある場合にのみ、DJI Flyに警告プロンプトが表示されます。

送信機のRTHボタンを押すことでRTHをキャンセルできます。ローバッテリー（バッテリー残量低下）警告が出た後にRTHをキャンセルすると、インテリジェント フライトバッテリーの残量不足で安全に着陸できないおそれがあります。その結果、機体が墜落したり紛失したりする可能性があります。

バッテリー残量が極度に少ない場合、機体は自動的に着陸します。自動着陸をキャンセルすることはできませんが、送信機を使用して着陸中の機体の水平方向の動きや下降速度を操作できます。

現在の高度から直接下降するだけのバッテリー残量しかない場合は、機体は自動的に着陸します。この着陸動作はキャンセルできませんが、送信機で機体の水平方向の動きを変更できます。

フェールセーフRTH

送信機信号が失われた時に機体が行うアクションを、DJI Flyで[Return-to-Home]、[着陸]、[ホバリング]の中から設定できます。アクションが[着陸]または[ホバリング]に設定されている場合、

フェールセーフRTHは有効になりません。事前にアクションを[Return-to-Home]に設定し、ホームポイントが記録され、GNSS信号が良好で、コンパスが正常に機能している場合、送信機信号が11秒以上失われると、フェールセーフRTHが自動的に起動します。

機体は元の飛行ルート上を50 m戻るように飛行し、事前設定されたRTH 高度まで上昇して直線RTHモードに移行します。フェールセーフRTH中に送信機信号が復元された場合は、機体は直線RTHを開始します。機体が元の飛行経路に沿って後方に飛行し、ホームポイントからの距離が20 m未満になった場合、機体は元の飛行ルートに沿った後方飛行を停止し、現在の高度で直線RTHを開始します。

その他のRTH適用シナリオ

送信機がまだ機体の動きを制御できる状態で飛行中にビデオリンクの信号が失われた場合は、RTHを開始するようにプロンプトが表示されます。RTHはキャンセルすることができます。

RTHの手順（直線）

1. ホームポイントが記録されます。
2. RTHが起動します。
3. RTH開始時に機体からホームポイントまでの距離が20 m 未満の場合、機体はその場でホバリングし、ホームには戻りません。RTHの開始時に機体がホームポイントから20 m以上離れている場合、機体は10.5 m/sの水平速度で帰還します。
4. 機体はホームポイントに到達すると、着陸してモーターを停止します。



- GNSS信号が弱いまたは利用不可の場合、機体はホームポイントに戻れないことがあります。フェールセーフRTHに入った後に、GNSS信号が弱くなった、または利用不可になった場合、機体はATTIモードに入ることがあります。機体は着陸する前に、しばらくの間その場でホバリングします。
 - 飛行の前には、その都度、適切なRTH高度を設定してください。DJI Flyを起動して、RTH 高度を設定します。RTHでは、機体の現在の高度がRTH高度よりも低い場合、機体はまず自動的にRTH高度まで上昇します。高度がRTH高度に達しているか、それよりも高い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
 - RTH中、送信機信号が正常な場合、送信機を使用して機体の速度、高度を制御できます。ただし、機体を左右に飛行させることはできません。機体の上昇または前方に飛行している場合、操作スティックを反対方向に最後まで倒すと、RTHが終了し、機体はブレーキをかけてホバリングします。
 - GEO区域はRTHに影響を及ぼす恐れがあります。GEO区域付近での飛行は避けてください。
 - 風速が強すぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。
-

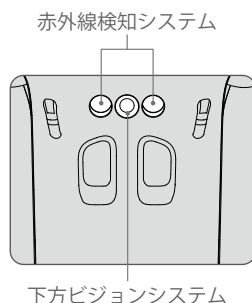
着陸保護

着陸保護機能は、スマートRTH中に有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、慎重に着陸します。
2. 地面が着陸に適していないと判断された場合には、DJI Mini 3はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
3. 着陸保護機能が作動しない場合、機体が地上0.5 mまで下降すると、DJI Flyが着陸プロンプトを表示します。[確認]をタップするか、スロットルスティックを下に倒して着陸します。

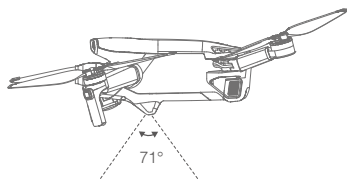
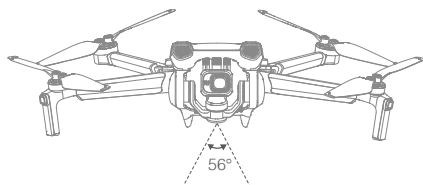
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

DJI Mini 3には、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが搭載されています。下方ビジョンシステムは1個のカメラで構成され、赤外線検知システムは2個の3D赤外線モジュールで構成されています。下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、GNSSを利用できない屋内やその他の環境下で飛行するために、機体が現在位置を維持し、より正確にホバリングできるようにします。



検知範囲

下方ビジョンシステムは、機体が高度0.5 m～10 mにあり、その動作範囲が0.5 m～30 mの場合に最も効果的に動作します。FOVは、56°（左方／右方）と71°（前方／後方）です。



ビジョンシステムの使用

GNSSを使用できない場合で、明確な質感の地面で十分な明るさがあるときは、下方ビジョンシステムが有効になります。下方ビジョンシステムは、機体が高度0.5～10mにある場合に最も効果を発揮します。機体の高度が10 mを超える場合は、ビジョンシステムが影響を受ける場合があります。細心の注意が必要です。








- 飛行環境に注意してください。下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、限られた条件下でのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、常に周囲の環境とDJI Flyの警告に注意を払い、責任を持って機体の操作にあたってください。
- GNSSが利用できない場合、機体の最大ホバリング高度は5 mです。
- 機体が水面上を飛行している場合、下方ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体が機体下の水面を完全に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに完全に依存しないようにしてください。
- 機体が過度に高速で飛行している場合は、下方ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが適切に機能しないことがあるのでご注意ください。赤外線検知システムは、飛行速度が12 m/s以下の場合にのみ有効になります。
- 下方ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の上空または低照度下では、適切に機能しません。下方ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。機体を注意深く操作してください。
 - a) モノクロ（黒一色、白一色、緑一色など）の地表面上を飛行している場合。
 - b) 反射率が高い地表面上を飛行している場合。
 - c) 水面または透明な地表面上を飛行している場合。
 - d) 動く面または物体の上空を飛行している場合。
 - e) 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合。
 - f) 非常に暗い（10ルクス未満）または非常に明るい（40,000ルクス超）地表面上を飛行している場合。
 - g) 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）の上空を飛行している場合。
 - h) はっきりした模様や構造のない地表面上を飛行している場合（電柱など）。
 - i) 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面上を飛行している場合。
 - j) 表面積の小さい障害物上を飛行している場合（木枝など）。
- センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサーを覆ったり、遮ったりしないでください。ほこりや湿気のある環境では、使用しないでください。赤外線検知システムを遮断しないでください。
- 雨や霧、または視界が不明瞭な日には飛行しないでください。
- 離陸前に必ず以下を確認してください：
 - a) 赤外線検知システムや下方ビジョンシステムにステッカーが貼られていないことや、その他の障害物がないことを確認します。
 - b) 赤外線検知システムや下方ビジョンシステムに汚れや埃、水が付いている場合は、柔らかな布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
 - c) 赤外線検知システムおよび下方ビジョンシステムのガラスに傷などがある場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

インテリジェント フライトモード

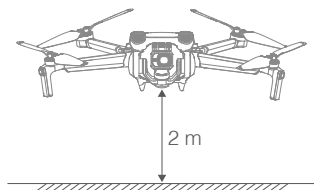
クイックショット

クイックショット撮影モードには、ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメランがあります。DJI Mini 3は、選択した撮影モードに従って録画し、短編動画を自動的に生成します。動画は再生画面で表示、編集したり、SNSで共有したりできます。

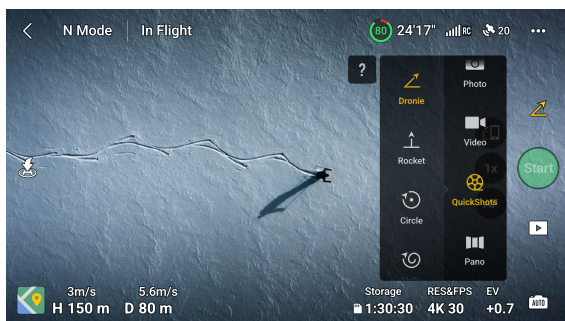
-  **ドローニー**：機体は、対象にカメラをロックした状態で後上方に飛行します。
-  **ロケット**：機体は、カメラを下に向けた状態で上昇します。
-  **サークル**：機体は、被写体周囲を旋回します。
-  **ヘリックス**：機体は、被写体周囲をスパイラル状に上昇しながら旋回します。
-  **ブーメラン**：機体は楕円を描きながら始点から離れる時に上昇し、下降しながら始点に戻るパターンで対象の周りを旋回します。機体の始点は楕円の長軸の一端を形成し、長軸のもう一方の端は始点から見て被写体の反対側にあります。ブーメラン機能を使用する時は十分なスペースを確保してください。機体の周囲は半径30 m以上、上空は10 m以上必要です。


クイックショットの使用

1. インテリジェント フライトバッテリーが十分に充電されていることを確認してください。離陸したら、地上から2m以上の高さでホバリング状態にします。




2. DJI Flyで撮影モードアイコンをタップし、[クイックショット]を選択し、指示に従います。撮影モードの使用方法を理解していること、および周囲に障害物がないことを確認してください。




3. 撮影モードを選択し、カメラビューで対象を選択（対象上の円をタップするか対象の周りをドラッグしてボックスを作成）して、[開始]をタップして録画を開始します（対象の被写体には、建物ではなく、人物を選択することをお勧めします）。撮影が終了すると、機体は元の位置に飛行して戻ります。
4. をタップして、短編動画または元の動画にアクセスします。動画はダウンロードした後、編集したり、SNSで共有したりできます。

クイックショットの終了

飛行一時停止／RTHボタンを1回押すか、DJI Flyでをタップしてクイックショットを終了します。機体はその場でホバリングします。

操作スティックを誤って動かした場合、機体はクイックショットを終了し、その場でホバリングします。



-  • クイックショットは、建物などの障害物がない場所で使用してください。飛行経路上に人間、動物、その他の障害物がないことを必ず確認してください。
- 機体周辺の物に注意し、送信機を使用して機体の衝突を回避してください。
- 次の状況ではクイックショットを使用しないでください。
- a) 被写体が長時間遮られているか目視外にある場合。
 - b) 被写体が機体から50 m以上離れている場合。
 - c) 被写体の色や模様が周囲と似ている場合。
 - d) 被写体が空中にある場合。
 - e) 被写体が速く動いている場合。
 - f) 照明が非常に暗い（300ルクス未満）、または非常に明るい（10,000ルクス超）場合。
- 建物の近くやGNSS信号が弱い場所でクイックショットを使用しないでください。そのような場合は、飛行経路が不安定になります。
- クイックショットを使用する場合は、必ず現地のプライバシー法令に従ってください。

フライトレコーダー

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどの飛行データは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、データにアクセスできます。

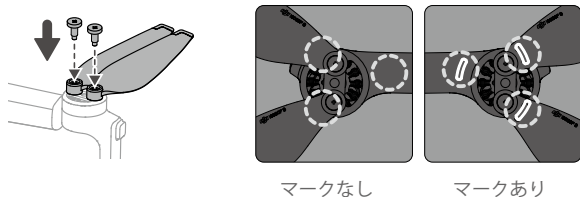
プロペラ

プロペラには2種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。記載されているマークは、どのモーターにどのプロペラを取り付けるべきかを示しています。1つのモーターに取り付ける2つのブレードは同じものです。

プロペラ	マークあり	マークなし
イラスト		
搭載位置	マークありのアームのモーターに取り付ける	マークなしのアームのモーターに取り付ける

プロペラの取り付け

マークのあるプロペラは、同じくマークのあるアームのモーターに取り付け、マークのないプロペラは、同じくマークのないアームのモーターに取り付けます。機体パッケージに同梱されたドライバーを使用して、プロペラを取り付けます。プロペラがしっかり固定されていることを確認してください。



マークなし

マークあり

- ⚠ プロペラの取り付けには、機体パッケージに同梱されたドライバーのみを使用してください。他のドライバーを使用すると、ねじが損傷する恐れがあります。
- ねじを締めるときは、ねじをまっすぐ垂直にして締めてください。ねじは、取り付け面に対して斜めに取り付けないでください。取り付けが完了したら、ねじが平らになっているかどうかを確認し、プロペラを回転させて異常な抵抗がないかどうかを確認します。

プロペラの取り外し

機体パッケージのドライバーを使用してねじを緩め、プロペラをモーターから取り外します。

- ⚠
 - プロペラのブレードの先端は鋭利です。注意して扱ってください。
 - ドライバーは、プロペラを取り付けるためのものです。ドライバーを使用して機体を分解しないでください。
 - プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラ（2つ）とねじ（2つ）を取り外して廃棄します。同じパッケージに同梱されているプロペラを使用してください。他のパッケージのプロペラと混せて使用しないでください。
 - DJI公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
 - 必要に応じて追加のプロペラを購入してください。
 - 飛行前に、毎回プロペラとモーターが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間30時間（約60回分のフライト）ごとに、プロペラのねじの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。
 - 各飛行前に、すべてのプロペラが良好な状態であることを確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。
 - けがをしないよう、回転しているプロペラやモーターには手を触れたり近づけたりしないでください。
 - 輸送または保管中にプロペラをひねったり、折り曲げたりしないでください。
 - モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
 - モーターを改造しないでください。
 - 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体の一部が接触したりしないようにしてください。
 - モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
 - 電源を入れた時、ESCの動作音に異常がないことを確認してください。

インテリジェント フライトバッテリー

DJI Mini 3の機体は、DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー (BW162-2453-7.38)と DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリーPlus (BW162-3850-7.38)ともに互換性があります。

DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリーは、電圧7.38 V、容量2453 mAhのバッテリーです。DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー Plusは、電圧7.38 V、容量3850 mAhのバッテリーです。この2つのバッテリーは、構造とサイズ自体は同じですが、重量と容量が異なります。両方のバッテリーは、スマート充電および放電機能を備えています。

バッテリーの機能

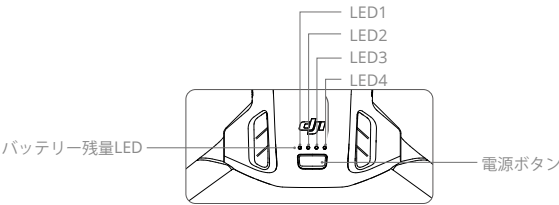
1. バランス充電：充電時、バッテリーセルの電圧は自動でバランス調整されます。
2. 自動放電機能：膨張を防ぐため、バッテリーは、1日間アイドリング状態のときは、バッテリー残量約96%になるまで自動で放電します。9日間アイドリング状態が続くときにはバッテリー残量約60%になるまで自動で放電します。放電中にバッテリーから適度な熱を感じますが、これは正常な状態です。
3. 過充電保護：バッテリーが完全に充電されると、充電は自動的に停止します。
4. 温度検知：損傷を防ぐために、バッテリーは、5°~40℃の温度でのみ充電されます。充電中にバッテリーセルの温度が55℃を超えると、充電は自動的に停止します。
5. 過電流保護：過電流が検知されるとバッテリーの充電は停止されます。
6. 過放電保護：使用されていない場合、バッテリーの放電は自動的に停止して過放電を防ぎます。使用されている場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
7. 短絡保護：短絡が検知されると、電源が自動的に切断されます。
8. バッテリーセルの損傷保護：DJI Flyは、損傷したバッテリーセルを検知すると警告プロンプトを表示します。
9. ハイバネーション モード：バッテリーセルの電圧が3.0V未満、またはバッテリー残量が10%未満の場合、バッテリーはハイバネーション モードに入り、過放電を防止します。バッテリーを充電すると、ハイバネーション モードから復帰します。
10. 通信：バッテリーの電圧、容量、電流に関する情報は、機体に送信されます。

⚠️ • ご使用の前に、DJI Mini 3の安全ガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ラベルに記載されている安全要件に反する行為をユーザーが行った場合、いかなる場合も弊社は一切の責任を負いかねます。

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押して、バッテリー残量を確認します。



バッテリー残量LEDは、充電中および放電中に、バッテリーの残量を表示します。LEDのステータスは以下のように定義されます：

バッテリー残量LED				
●：LED点灯 ●：LED点滅 ○：LED消灯				
LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
●	●	●	●	88%～100%
●	●	●	●	75%～87%
●	●	●	○	63%～74%
●	●	●	○	50%～62%
●	●	○	○	38%～49%
●	●	○	○	25%～37%
●	○	○	○	13%～24%
●	○	○	○	1%～12%

電源のオン／オフ

電源ボタンを1回押して2秒間長押しすると、機体の電源オン／オフを切り替えられます。機体の電源を入れたら、バッテリー残量LEDにバッテリー残量が表示されます。機体の電源が切れると、バッテリー残量LEDが消灯します。

機体の電源が入っているときに電源ボタンを1回押すと、4つのバッテリー残量LEDが3秒間点滅します。電源ボタンが押されていないのにLED3と4が同時に点滅する場合は、バッテリーに異常があることを示しています。機体からバッテリーを取り外し、バッテリーを再度挿入して、しっかりと取り付けられていることを確認してください。

低温注意

- 1. 低温環境（-10℃～5℃）で飛行すると、バッテリー容量が著しく減少します。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせることを推奨します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
- 2. バッテリーは極低温環境（-10℃より低い）では使用できません。
- 3. 最適な性能を発揮するには、バッテリー温度を20℃以上に保ってください。

4. 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
5. 海拔の高いところでの飛行にはさらに注意が必要です。

⚠ • 低温環境では、バッテリーをバッテリー収納部に装填して、離陸する前に機体の電源を入れ、ウォームアップするようにしてください。

バッテリーの充電

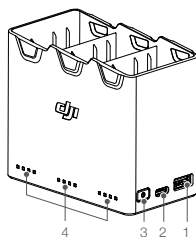
各使用の前には、必ずバッテリーを完全に充電してください。DJI Mini 3 Proの2WAY 充電ハブ、DJI 30W USB-C充電器、その他のPD規格対応のUSB充電器など、DJIが提供する充電器を使用することをお勧めします。DJI Mini 3 Proの2WAY 充電ハブとDJI 30W USB-C充電器はどちらもオプションのアクセサリです。詳細については、公式DJIオンラインストアをご覧ください。

⚠ • 機体に取り付けられている状態のバッテリーを充電する、もしくはDJI Mini 3 Pro用の2WAY 充電ハブに挿入している状態のバッテリーを充電する場合、最大充電電力は30 Wです。

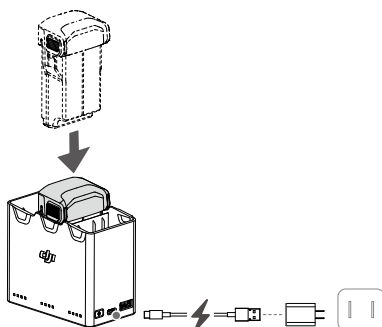
充電ハブの使用

DJI Mini 3 Proの2WAY 充電ハブをUSB充電器と一緒に使用すると、3個のインテリジェント フライトバッテリー（またはインテリジェント フライトバッテリー Plus）をバッテリー残量の多いものから順に充電します。充電ハブをDJI 30W USB-C充電器と一緒に使用すると、1つのインテリジェント フライトバッテリーを約56分で、1つのインテリジェント フライトバッテリー Plusを約78分で完全に充電できます。

充電ハブがUSB充電器を介してAC電源に接続されている場合、インテリジェント フライトバッテリーと外部デバイス（送信機やスマートフォンなど）の両方をハブに接続して充電できます。デフォルトでは、バッテリーが外部デバイスより先に充電されます。充電ハブがAC電源に接続されていない場合、インテリジェント フライトバッテリーをハブに挿入すると、インテリジェント フライトバッテリーをパワーバンクとして使用でき、外部デバイスをUSBポートに接続してデバイスを充電できます。詳細については、DJI Mini 3 Proの2WAY 充電ハブのユーザーガイドを参照してください。



- | | |
|------------------|-------------|
| 1. USBポート | 3. 機能ボタン |
| 2. 電源ポート (USB-C) | 4. ステータスLED |



充電方法

- 1. カチッと音がするまで、バッテリーを充電ハブに挿入します。
- 2. USB-CケーブルとDJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用して、充電ハブを電源コンセント (100-240 V、50/60 Hz) に接続します。
- 3. 残量が一番高いバッテリーが最初に充電されます。他のバッテリーは、残量に応じて順番に充電されます。対応するステータスLEDは、充電ステータスを表示します（下表を参照）。対応するLEDは、バッテリーが完全に充電されると緑色に点灯します。

ステータスLEDの説明

充電ステータス

点滅パターン	説明
ステータスLED（一列）が連続して（すばやく）点滅	該当のバッテリーポートのバッテリーは、急速充電対応充電器を使用して充電されています。
ステータスLED（一列）が連続して（ゆっくり）点滅	該当のバッテリーポートのバッテリーは、通常の充電器を使用して充電されています。
ステータスLED（一列）が点灯	該当のバッテリーポートのバッテリーの充電が完了しました。
すべてのステータスLEDが順番に点滅	
バッテリーが一つも挿入されていない。	

バッテリー残量

充電ハブの各バッテリーポートには、LED1からLED4（左から右）の一列に並んだステータスLEDがあります。機能ボタンを1回押して、バッテリー残量を確認することができます。バッテリー残量LEDステータスは、機体のステータスと同じです。詳細については、機体のバッテリー残量LEDのステータスと説明を参照してください。

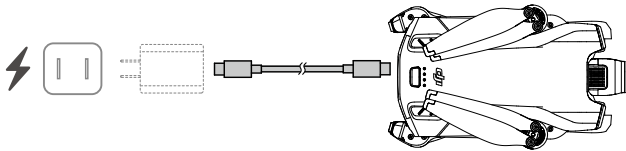
異常ステータス

バッテリー異常のLEDステータスは機体と同じです。詳細については、バッテリー保護メカニズムのセクションを参照してください。

- ⚠
- 充電ハブに電力を供給するには、DJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用することをお勧めします。
 - 環境温度は充電速度に影響を及ぼします。25℃の換気の良い環境では、充電速度がより速くなります。
 - 充電ハブは、BWX162-2453-7.38 インテリジェント フライトバッテリーおよびBWX162-3850-7.38 インテリジェント フライトバッテリー Plusのみ互換性があります。それ以外のバッテリーモデルと一緒に充電ハブを使用してしないでください。
 - 充電ハブを使用する際は、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
 - 充電ハブの金属端子に触れないでください。
 - 金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。

充電器の使用

- 1. バッテリーが機体に正しく取り付けられていることを確認してください。
- 2. USB充電器をACコンセント (100-240 V、50/60 Hz) に接続します。必要に応じて電源アダプターを使用してください。
- 3. USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を機体の充電ポートに接続します。
- 4. 充電中、バッテリー残量LEDは現在のバッテリー残量を表示します。
- 5. バッテリー残量LEDがすべて緑色に点灯したら、バッテリーの充電は完了です。充電が完了したら、充電器を取り外します。



- ⚠
- 機体の電源が入っているとバッテリーを充電できません。
 - 機体の充電ポートの最大充電電圧は15 Vです。
 - 飛行直後にはインテリジェント フライトバッテリーが過熱していることがあります。すぐには充電しないでください。バッテリーを室温近くまで放熱してから、再充電してください。
 - セルの温度が動作範囲 (5°~40°C) 内でない場合、充電器はバッテリーの充電を停止します。推奨する充電温度範囲は22°~28°Cです。
 - バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。DJI 30W USB-C充電器またはその他のPD規格対応のUSB充電器を使用することをお勧めします。

- 💡
- DJI 30W USB-C充電器を使用する場合、Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリーの充電時間は約1時間4分、Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー Plusの充電時間は約1時間41分です。
 - 安全上の理由から、輸送中はバッテリーの残量を低い状態にしておいてください。輸送前に、バッテリーを30%以下に放電しておくことをお勧めします。

下の表は、充電中のバッテリー残量LEDを示しています。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
				1%~50%
				51%~75%
				76%~99%
				100%

- 💡
- バッテリー残量LEDの点滅間隔は、使用するUSB充電器によって異なります。充電速度が高速な場合、バッテリー残量LEDが素早く点滅します。
 - バッテリーが機体に正しく挿入されていない場合、LED3とLED4が同時に点滅します。バッテリーを再度挿入し、しっかり取り付けられていることを確認してください。
 - 4つのLEDが同時に点滅する場合、バッテリーが損傷していることを示します。

バッテリー保護メカニズム

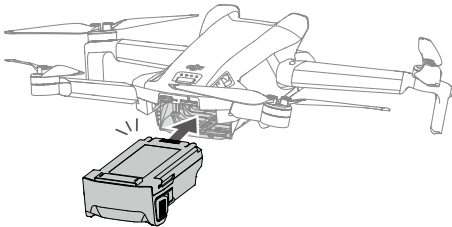
バッテリーのLEDは、異常な充電状態に関するバッテリー保護通知を表示します。

バッテリー保護メカニズム					
LED1	LED2	LED3	LED4	点滅パターン	状態
○	●	○	○	LED2が毎秒2回点滅	過電流検知
○	●	○	○	LED2が毎秒3回点滅	短絡検知
○	○	●	○	LED3が毎秒2回点滅	過充電検知
○	○	●	○	LED3が毎秒3回点滅	充電器の過電圧検知
○	○	○	●	LED4が毎秒2回点滅	充電温度が低すぎる
○	○	○	●	LED4が毎秒3回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度が異常な場合は、正常温度に戻るまでお待ちください。バッテリーは自動的に充電を再開します。充電器のプラグを抜き差しする必要はありません。

インテリジェント フライトバッテリーの装着

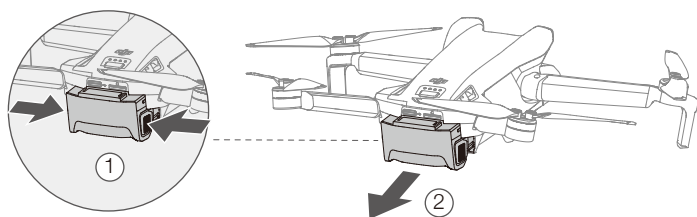
インテリジェント フライトバッテリーまたはインテリジェント フライトバッテリー Plusを機体のバッテリー収納部に挿入します。バッテリーバックルがしっかりと固定されると、カチッという音がします。これでバッテリーが完全に挿入されていることを確認できます。



- ⚠
- カチッという音でバッテリーが挿入されていることを確認します。バッテリーがしっかりと取り付けられていない場合に機体を離陸させないでください。バッテリーと機体の接触が悪くなり、危険を招く恐れがあります。

インテリジェント フライトバッテリーの取り外し

バッテリーの側面にあるバッテリーバックルの突起部分を押し、収納部から取り外します。

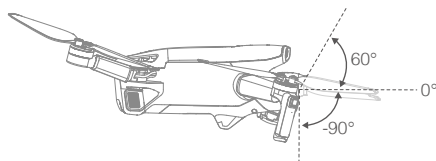


- 機体の電源が入っているときは、バッテリーを挿入したり取り外したりしないでください。
 - バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
-

ジンバル&カメラ

ジンバルの特徴

DJI Mini 3の3軸ジンバルは、カメラを安定させ、これにより高速飛行中でもクリアで安定した画像や動画を撮影できます。ジンバルのチルト制御範囲は $-90^{\circ}\sim+60^{\circ}$ で、ロール軸制御角度は -90° （ポートレート）と 0° （ランドスケープ）の2種類があります。



送信機のジンバルダイヤルを使用して、カメラのチルトを操作します。または、DJI Flyのカメラビューから行えます。調整バーが表示されるまで画面を押し、上下にドラッグしてカメラのチルトを操作します。DJI Flyのランドスケープ／ポートレートモード切替ボタンをタップして、2つのジンバルロール角度を切り替えます。ポートレートモードが有効になっている場合、ロール軸は -90° に回転し、ランドスケープモードでは 0° に戻ります。

ジンバルモード

2種類のジンバル操作モードがあります。DJI Flyの各操作モードを切り替えます。

フォローモード：ジンバルの向きと機体の前面の角度は、常に一定の角度を保ちます。ジンバルのチルトは調整できます。このモードは静止画の撮影に適しています。

FPVモード：機体が前方に飛行している場合、ジンバルが機体の動きと同調して、FOV視点の飛行体験を提供します。

- ⚠️ 離陸する前に、ジンバル上にステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源を入れた状態でジンバルを押ししたり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、平らで開けた場所から離陸させてください。
- 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバルが異常な動きをすることがあります。
- ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
- 以下の状況ではジンバルモーターは保護モードに切り替わることがあります：a. 機体が平らでない地面に置かれている、ジンバルが阻害されている場合。b. 衝突時など、ジンバルに外からの過剰な力を受けた場合。
- ジンバルの電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。ジンバルに余計な負荷をかけないでください。ジンバル動作の不具合や、モーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
- 機体の電源をオンにする前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。機体を使用しないときは、必ずジンバル プロテクターを取り付けてください。
- 濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがあります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。

カメラ

DJI Mini 3は、1/1.3インチCMOSセンサーを搭載しています。カメラの絞りはF1.7で、1 m～∞（無限遠）までの距離の撮影を行います。

DJI Mini 3カメラは48 MPの静止画を撮影でき、シングル、48MP、AEB、タイマー撮影、パノラマなどの撮影モードに対応しています。4K動画撮影にも対応しています。

-
- ⚠
- 使用中と保管中、温度と湿度がカメラに適したものであることを確認してください。
 - レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷や画質の低下を防いでください。
 - カメラの通気口をふさがないようにください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。
-

写真および動画の保存

DJI Mini 3では、microSDカードを使用して写真や動画を保存することができます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、UHS-Iスピードクラス3規格以上のmicroSDカードが必要です。推奨microSDカードに関しては、仕様を参照してください。

microSDカードが機体のmicroSDカードスロットに挿入されていない場合：

- DJI RC-N1送信機を使用する場合、シングル写真撮影や720pの動画録画が可能です。ファイルはモバイル端末に保存されます。
- DJI RC送信機を使用の場合は、写真撮影や動画録画はできません。推奨microSDカードを事前に機体のmicroSDカードスロットに挿入しておいてください。

-
- ⚠
- センサーの破損を避けるため、レーザーショーのようなレーザー光線のある環境にカメラのレンズをさらしたり、晴れた日の太陽のような強い光源に長時間カメラを向けたりしないでください。
 - 機体の電源が入っているときは、機体からmicroSDカードを抜かないでください。microSDカードが損傷する可能性があります。
 - 使用する前にカメラ設定を確認し、正しく設定されていることを確認してください。
 - 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作するか確認してください。
 - 機体の電源がオフの場合、DJI Flyを使用して機体のmicroSDカードから写真や動画を転送することはできません。
 - 機体の電源を正しく切ってください。正しく電源を切らなかった場合、カメラのパラメーターが正常に保存されず、記録された動画に影響がある場合があります。機械が読み取れない方式で記録された画像や動画による損失に対し、DJIは一切責任を負いません。
-

送信機

本セクションでは、送信機の各機能について説明します。また、機体とカメラの操作手順についても説明します。

送信機

DJI RC

DJI Mini 3と組み合わせて使用すると、DJI RC送信機でOcuSync 2.0映像伝送が機能し、周波数帯域 2.4 GHzと5.8 GHzの両方で動作します（日本国内：2.4 GHzのみ利用可能）。最適な伝送チャンネルを自動選択し、720p/30fps HDのライブビューを機体から最大10 km先の送信機に伝送できます（FCC規格に準拠し、電波干渉のない広く開けたエリアで測定。日本の場合、最大6 km）。

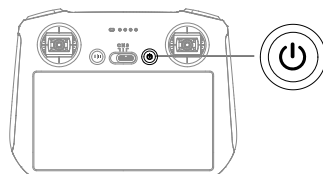
DJI RCには、5.5インチのタッチ画面（1920×1080ピクセルの解像度）に加えて、様々な制御とカスタムボタンも装備されているため、機体を簡単に制御でき、遠隔から機体設定を変更できます。18.72 Whの電力を供給する5200 mAhの内蔵バッテリーによって、送信機の駆動時間は最大4時間になります。DJI RCには、Wi-Fi接続、内蔵GNSS（GPS+BeiDou+Galileo）、Bluetooth、内蔵スピーカー、取り外し可能な操作スティック、microSDストレージなど、たくさんの機能が 있습니다。

送信機の使用

電源のオン／オフ

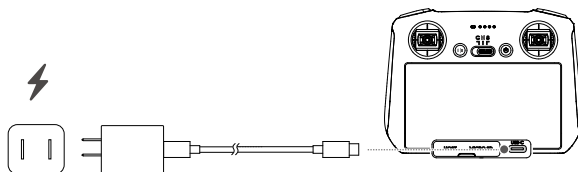
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。

ボタンを1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。バッテリーは、最大充電電力15 W (5V/3A) で約1時間30分で完全に充電できます。



• PD規格対応のUSB充電器の使用をお勧めします。

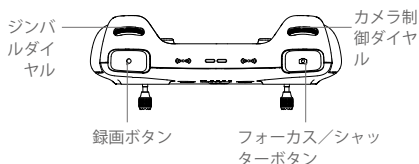
ジンバル&カメラの操作

フォーカス/シャッターボタン：半押しでオートフォーカスが作動し、全押しで写真を撮影します。

録画ボタン：1回押すと、録画を開始/停止します。

カメラ制御ダイヤル：ズームを調整します。

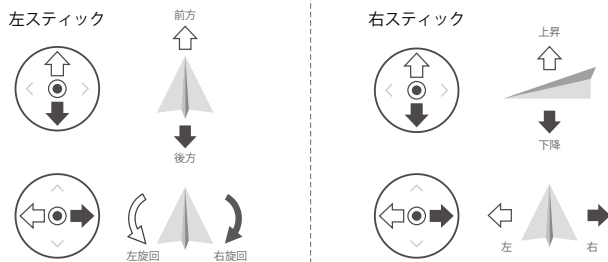
ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを制御します。



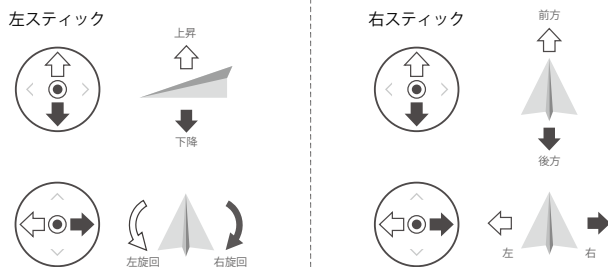
機体の制御

操作スティックを使用して、機体の向き（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。

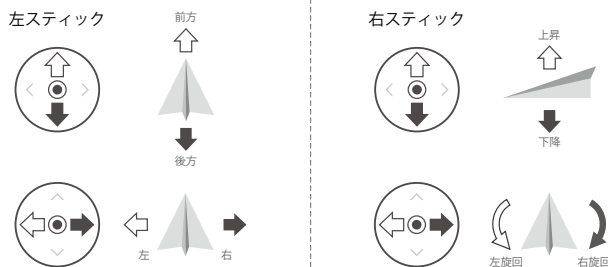
モード1




モード2

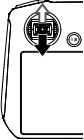

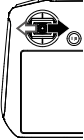
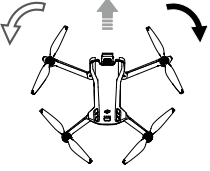
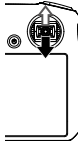
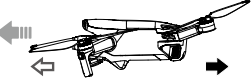
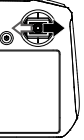



モード3



送信機のデフォルトの制御モードはモード2です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード2を使用しています。

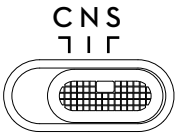
- 
- スティック ニュートラル／中心点：操作スティックはセンターポジションにあります。
 - 操作スティックの動作：操作スティックを倒して、センターポジションから遠ざけます。

送信機 (モード2)	機体 (◀▶は機首方向を示す)	備考
		スロットルスティック 左スティックを上 下に倒して、機体の高度を変更します。上 昇させるにはスティックを上倒し、下降 させるには下に倒します。スティックが中 央位置から離れるほど、機体の高度変更速 度が速くなります。機体の高度を急激に変 えないように、操作スティックは優しくゆ っくりと動かしてください。
		ヨースティック：左スティックを左右に 動かして、機体の進行方向を制御しま す。スティックを左に倒すと機体は反時 計回りに回転し、右に倒すと時計回りに 回転します。スティックが中央位置から 離れるほど、機体の回転速度が速くなり ます。
		ピッチスティック：右スティックを上 下に倒すと、機体のピッチを変えられ ます。スティックを上倒すと前進し、下 に倒すと後進します。スティックが中央 位置から離れるほど、飛行速度が上が ります。
		ロール スティック：右スティックを左 右に倒すと、機体を左右に移動できま す。左に倒すと左に飛び、右に倒すと右 に飛びます。スティックが中央位置から離 れるほど、飛行速度が上がります。

フライトモードスイッチ

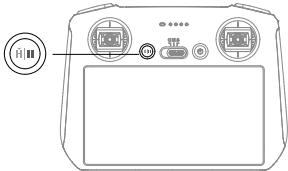
このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

位置	フライトモード
S	スポーツモード
N	ノーマルモード
C	シネモード



飛行一時停止／RTHボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。送信機からピープ音が鳴るまでボタンを長押ししてReturn to Home（RTH）を開始すると、機体は最後に記録されたホームポイントに戻ります。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

DJI Flyの[システム設定]に移動し、[制御]を選択してカスタムボタンC1およびC2の機能を設定します。

ステータスLEDとバッテリー残量LEDの説明

ステータスLED

点滅パターン	説明
——	赤色点灯 機体との接続が切断
.....	赤色点滅 機体のバッテリー残量が低下
——	緑色点灯 機体と接続完了
.....	青色点滅 送信機は機体にリンク中
——	黄色点灯 ファームウェア更新に失敗
——	青色点灯 ファームウェア更新に成功
.....	黄色に点滅 送信機のバッテリー残量が低下
.....	水色に点滅 操作スティックが中央位置にない

バッテリー残量LED

点滅パターン				バッテリー残量
				75%～100%
				50%～75%
				25%～50%
				1%～25%

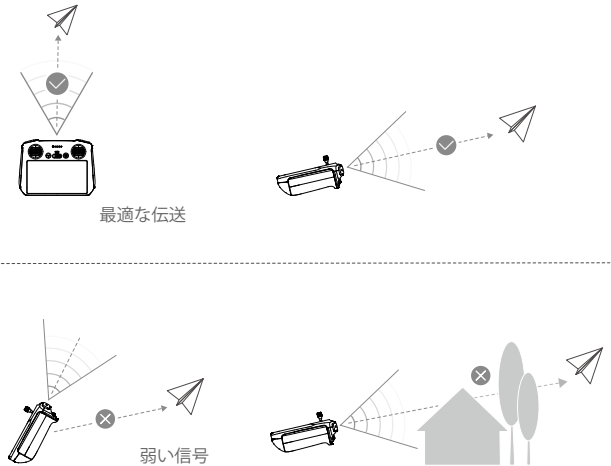
送信機のアラート

エラーや警告がある場合、送信機からアラート音（ピープ音）が鳴ります。タッチ画面またはDJI Fly内でプロンプトが表示される場合は注意してください。上から下にスワイプして[ミュート]を選択すると、アラート音を無効になります。もしくは、音量バーを0にスライドすると、一部の警告アラート音が無効になります。

送信機はRTH中にアラート音を鳴らします。RTH中のアラート音はキャンセルできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下（6%～10%）するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が5%未満になると、アラート音が鳴り、重度のバッテリー残量低下をお知らせします。このアラート音はキャンセルできません。

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、下の図に示すように送信機が機体の方を向いている場合に最も信頼性が高くなります。



- 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。
- 飛行中において送信信号が弱い場合、DJI Flyにプロンプトが表示されます。送信機の向きを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあるようにしてください。

送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。送信機と機体がリンクされていない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後送信機と機体をリンクさせてください。

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Flyを起動します。
3. カメラビューで●●●をタップし、[制御]を選択し[機体とペアリングする（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はリンクの準備ができると、ピープ音を1回鳴らします。リンクが確立すると、機体は2回ピープ音を鳴らし、送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。



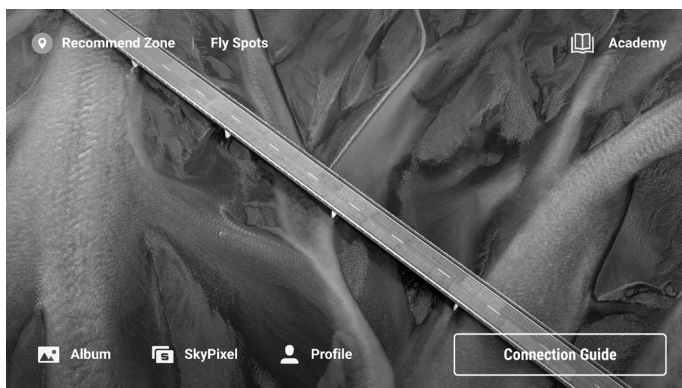
- リンクは、送信機が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- 最適な動画伝送には、送信機のBluetoothとWi-Fiをオフにします。



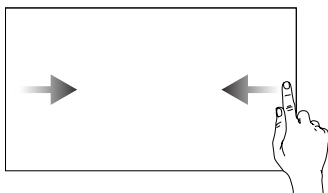
- 各飛行の前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
- 送信機の電源がオンの状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

タッチ画面の操作

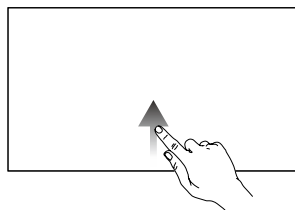
ホーム



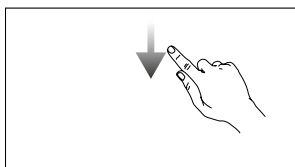
操作



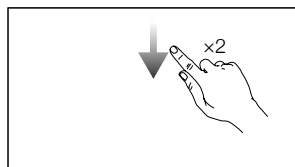
画面の左または右から中央にスワイプすると、前の画面に戻ります。



画面の下部から上にスワイプすると、DJI Flyに戻ります。

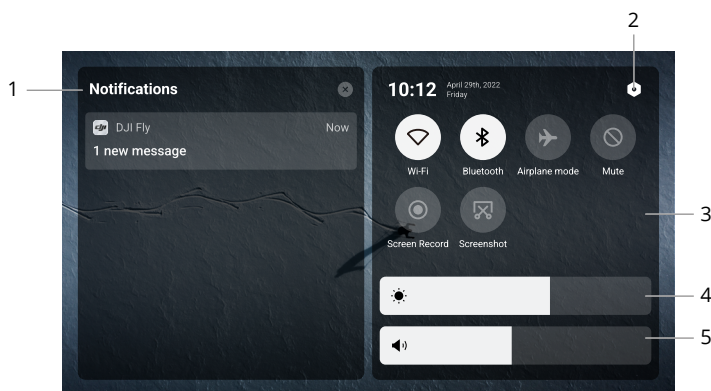


DJI Flyで、画面の上部から下にスワイプすると、ステータスバーが開きます。ステータスバーには、時間、Wi-Fi信号、送信機のバッテリー残量などが表示されます。



DJI Flyで、画面の上部から下に2回スワイプすると、[クイック設定]が開きます。

クイック設定



1. 通知

タップするとシステム通知を確認できます。

2. システム設定

タップすると、[システム設定]にアクセスし、Bluetooth、音量、ネットワークなどを設定します。また、ガイドを表示して、制御とステータスLEDの詳細を確認することもできます。

3. ショートカット

◇：タップしてWi-Fiを有効または無効にします。長押しすると設定画面に移動し、Wi-Fiネットワークを接続または追加します。

✱：タップすると、Bluetoothを有効または無効にします。長押しすると設定画面に移動し、近くのBluetoothデバイスと接続します。

✈：タップすると、機内モードが有効になります。Wi-FiとBluetoothが無効になります。

⊗：タップするとシステム通知がオフになり、すべてのアラート音が無効になります。

◎：タップすると、画面収録が開始します。この機能は、microSDカードを送信機のmicroSDスロットに挿入した後に使用できるようになります。

☒：タップすると、スクリーンショットを撮ります。この機能は、microSDカードを送信機のmicroSDスロットに挿入した後に使用できるようになります。

4. 明るさの調整

バーをスライドして画面の明るさを調整します。

5. 音量の調整

音量を調整するには、バーをスライドします。

高度な機能

コンパスのキャリブレーション

電波干渉のある場所で送信機を使用した後は、コンパスのキャリブレーションが必要な場合があります。送信機のコンパスをキャリブレーションする必要がある場合、警告プロンプトが表示されます。警告メッセージをタップし、キャリブレーションを開始してください。それ以外の場合は、以下の手順に従って送信機のキャリブレーションを行います。

1. 送信機の電源を入れ、[クイック設定]に移動します。

2. ●をタップしてシステム設定に入り、下にスクロールして[コンパス]をタップします。

3. 画面上の指示に従ってコンパスをキャリブレーションしてください。

4. キャリブレーションが成功すると、プロンプトが表示されます。

送信機の警告

機体との接続が切れると、送信機のインジケーターが赤色で点灯します。機体との接続が切れると、DJI Flyに警告プロンプトが表示されます。機体との接続が切れたり、機体の操作を長時間行わなかったりした場合、送信機はピープ音を鳴らし、自動的に電源が切れます。

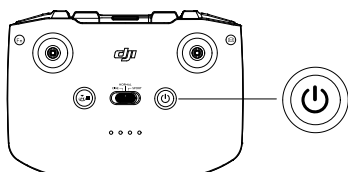
DJI RC-N1

DJI Mini 3 と組み合わせて使用すると、DJI RC-N1でOcuSync 2.0動画伝送が機能し、周波数帯域 2.4GHzと5.8GHzの両方で動作し、最適な伝送チャンネルを自動選択できます。（日本国内は 2.4GHzのみ利用可能。）最大伝送距離10 km先の機体からの720p/30fpsのHDライブビューをモバイル端末のDJI Flyで表示します（表示はモバイル端末の性能に依存します。最大伝送距離は、FCC規格に準拠し、電波干渉のない広く開けたエリアで測定した値です。日本の場合、最大6 km）。この範囲内で機体を制御し、設定の変更を簡単に行えます。内蔵バッテリーの容量は5200 mAhで、電力量は18.72 Wh、6時間の最大駆動時間に対応しています。送信機は、500 mA@5 Vの充電率でAndroidモバイル端末を自動充電します。iOSデバイスの充電はデフォルトでは無効になっています。iOSデバイスを充電するには、送信機の電源を入れるたびにDJI Flyで充電機能が有効になっていることを確認してください。

電源のオン／オフ

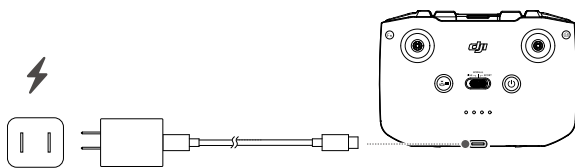
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。バッテリー残量が少ない場合、使用前に充電してください。

ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、USB充電器を送信機のUSB-Cポートに接続します。



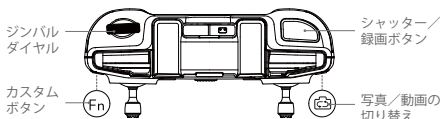
ジンバル&カメラの操作

シャッター／録画ボタン：1回押すと、写真を撮影する、または録画を開始／停止します。

写真／動画の切り替え：1回押すと写真モードと動画モードを切り替えます。

ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを制御するのに使用します。

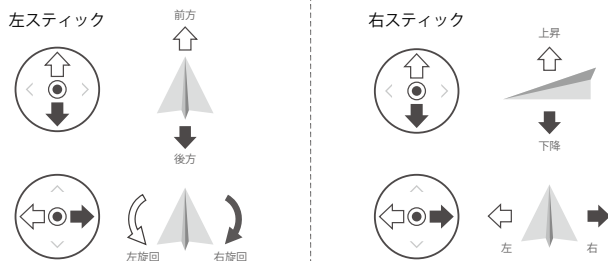
カスタムボタンを長押ししたまま、ジンバルダイヤルを使用すると、ズームイン／ズームアウトします。



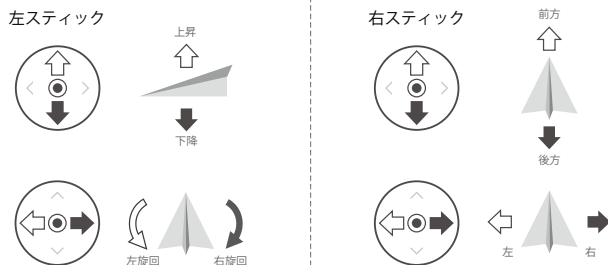
機体の制御

操作スティックを使用して、機体の向き（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。

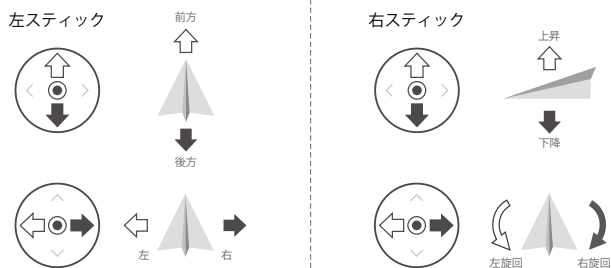
モード1




モード2



モード3



送信機のデフォルトの制御モードはモード2です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード2を使用しています。

-  **スティック ニュートラル／中心点：**操作スティックはセンターポジションにあります。
操作スティックの動作：操作スティックを倒して、センターポジションから遠ざけます。

送信機 (モード2)	機体 (◀は機首方向を示す)	備考
		スロットルスティック 左スティックを上 下に倒して、機体の高度を変更します。 上昇させるにはスティックを上 に倒し、 下降させるには下に倒します。スティ ックが中央位置から離れるほど、機体 の高度変更速度が速くなります。機体 の高度を急激に変えないよう、操作ス ティックは優しくゆっくりと動かして ください。
		ヨースティック：左スティックを左右に 動かして、機体の進行方向を制御し ます。スティックを左に倒すと機体は反 時計回りに回転し、右に倒すと時計回 りに回転します。スティックが中央位 置から離れるほど、機体の回転速度 が速くなります。
		ピッチスティック：右スティックを上 下に倒すと、機体のピッチを変えら れます。スティックを上 に倒すと前進し、下 に倒すと後進します。スティックが中 央位置から離れるほど、飛行速度が 上がります。
		ロール スティック：右スティックを左 右に倒すと、機体を左右に移動でき ます。左に倒すと左に飛び、右に倒 すと右に飛びます。スティックが中 央位置から離れるほど、飛行速度 が上がります。

フライトモードスイッチ

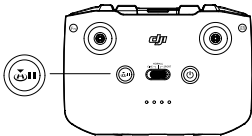
このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

位置	フライトモード
Sport	スポーツモード
Normal	ノーマルモード
Cine	シネモード



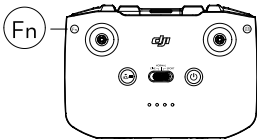
飛行一時停止／RTHボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。RTHを開始するには、送信機からピープ音が鳴るまでボタンを長押しします。機体は最後に記録されたホームポイントへ戻ります。再度このボタンを押すと、RTHをキャンセルし機体を制御できるようになります。



カスタムボタン

DJI Flyの[システム設定]に移動し、[制御]を選択してこのボタンの機能をカスタマイズします。カスタム可能な機能には、ジンバルの再センタリングや、マップとライブビューの切り替えが含まれます。

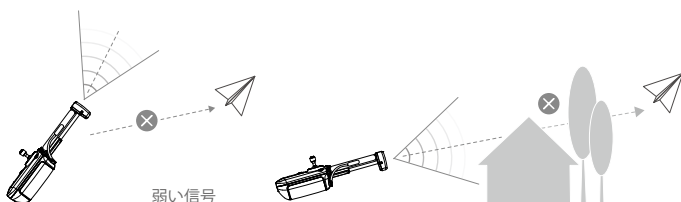
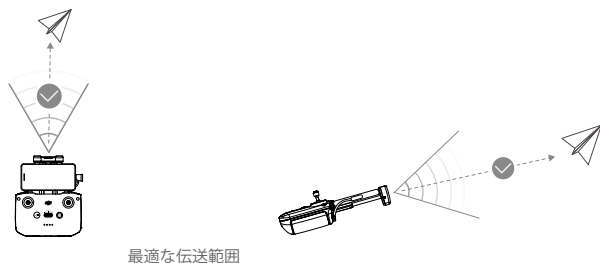


送信機のアラート

送信機はRTH中にアラート音を鳴らします。RTH中のアラート音はキャンセルできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下（6%～10%）するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が5%未満になると、アラート音が鳴り、重度のバッテリー残量低下をお知らせします。このアラート音はキャンセルできません。

最適な伝送範囲

機体と送信機間の信号は、下の図に示すように送信機が機体の方を向いている場合に最も信頼性が高くなります。



送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。送信機と機体がリンクされていない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後送信機と機体をリンクさせてください。

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Flyを起動します。
3. カメラビューで●●●をタップし、[制御]を選択し[機体とペアリングする（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はリンクの準備ができると、ピープ音を1回鳴らします。リンクが確立すると、機体は2回ピープ音を鳴らし、送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。



- リンクは、送信機が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
- 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
- 最適な動画伝送には、モバイル端末のBluetoothとWi-Fiをオフにします。



- 各飛行の前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
- 送信機の電源がオンの状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。
- モバイル端末ホルダーを調整して、モバイル端末が確実に固定されるようにします。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

送信機の警告

機体との接続が切れると、バッテリー残量LEDがゆっくりと点滅し始めます。機体との接続が切れたり、機体の操作を長時間行わなかったりした場合、送信機はピープ音を鳴らし、自動的に電源が切れます。




- 送信機と他の無線機器との干渉を避けてください。モバイル端末のWi-Fiを必ずオフにしてください。強い干渉がある場合は、できるだけ早く機体を着陸させてください。
 - スマートフォンを飛行モニターとして使用しているとき、照度条件が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、機体を操作しないでください。ユーザーは、画面の明るさを適切に調整し、パイロットは飛行中のモニターへの直射日光に注意を払う必要があります。
 - 意図しない動作が発生した場合、操作スティックの操作を中止するか、飛行一時停止ボタンを押してください。
-

DJI Flyアプリ

本セクションでは、DJI Flyアプリの主要機能について説明します。

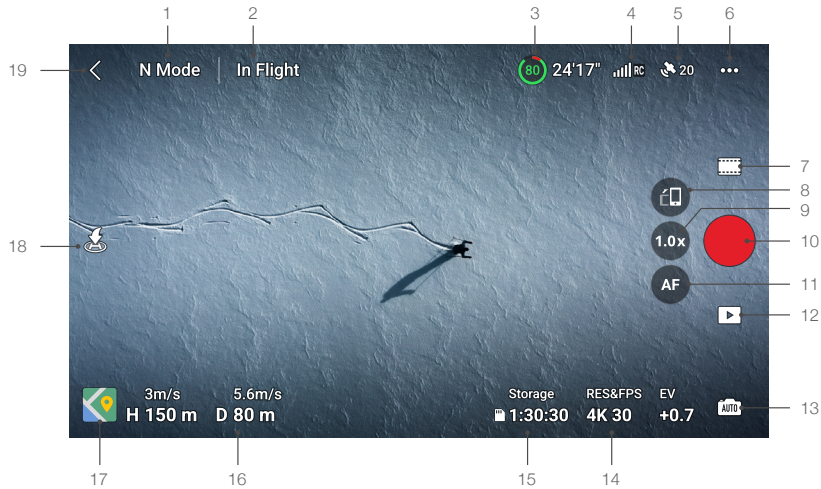
DJI Flyアプリ

ホーム

-  • DJI Flyのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際の使用感は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

- DJI Fly を起動して、ホーム画面に移動すると、次の機能が使用できます。
- チュートリアルビデオ、ユーザーマニュアル、フライスポット、飛行のヒントなどを検索できます。
 - 各地域の規制要件を確認し、フライスポットに関する情報を入手できます。
 - 機体アルバムやローカルデバイスに保存された映像から写真やビデオを表示したり、SkyPixel からさらに多くの共有映像を閲覧したりできます。
 - DJI アカウントでログインし、アカウント情報を確認できます。
 - アフターサービスやサポートを受けることができます。
 - ファームウェアを更新したり、オフラインマップをダウンロードしたり、「ドローンを探す」機能にアクセスしたり、DJI Forum や DJI ストアを利用したりできます。

カメラビュー




1. フライトモード
Nモード：現在のフライトモードを表示します。
2. システム ステータスバー
飛行中：機体の飛行ステータスを示し、様々な警告メッセージを表示します。警告プロンプトが表示されたら、タップして詳細情報を表示します。


3. バッテリー情報

 24'17" : 現在のバッテリー残量と残りの飛行時間を表示します。

4. 動画ダウンリンク信号強度

 RC : 機体と送信機との間の動画ダウンリンク信号強度を表示します。

5. GNSSステータス

 20 : 現在のGNSSの信号強度を表示します。タップしてGNSS信号の状態を確認します。アイコンが白色のときにホームポイントの更新ができ、GNSS信号が強いことを示します。

6. システム設定

… : システム設定は、安全性、操作、カメラ、および伝送に関する情報を提供します。

• 安全

RTH : タップすると、RTH高度を設定したり、ホームポイントを更新したりできます。

飛行保護 : タップすると、飛行の最大高度と最大距離を設定できます。

センサー : タップすると、IMUとコンパスのステータスを表示し、必要に応じてキャリブレーションを開始します。

GEO区域をロック解除 : タップすると、GEO区域のロック解除に関する情報を表示できます。

ドローンを探す機能は、マップを使用して地上にある機体の位置を検索します。

バッテリー : タップすると、バッテリーセル ステータス、シリアル番号、充電回数などのバッテリー情報が表示されます。

高度安全設定には、緊急時の飛行中の送信機信号が失われた時やプロペラ停止時の機体の挙動設定などがあります。

送信機信号が失われた時の機体の動作には、「Return-to-Home」、「降下」、「ホバリング」に設定できます。

プロペラ緊急停止の設定での「緊急時のみ」とは、飛行中に衝突が起きたり、モーターが動かなかったり、空中でローリングしたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したりなど緊急事態が発生した場合にのみ、モーターを停止できることを示します。緊急プロペラ停止の「随時」は、ユーザーがコンビネーション スティック コマンド (CSC) を実行すると、飛行中にいつでもモーターを停止できることを示します。飛行時にモーターを停止する場合、CSCコマンドの実行中に操作スティックを2秒間保持する必要があります。

 • 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

プロペラガードなどのアクセサリが機体に取り付けられている場合は、安全性を高めるためにペイロードモードを有効にすることをお勧めします。離陸後、ペイロードが検出されると、ペイロードモードが自動的に有効になります。ペイロードを取り付けて飛行する場合、そのペイロードの状態に応じて、飛行性能が低下します。ペイロードモードが有効な場合、運用限界高度（海拔）は1500 m であり、最大飛行速度や最大飛行距離は制限されることに注意してください。

• 制御

機体設定 : 測定単位を設定します。

ジンバル設定 : タップすると、ジンバルモードの設定、詳細設定の入力、ジンバル キャリブレーションの実行およびジンバルの再センタリングや下方へのチルトを操作できます。

送信機設定 : タップすると、カスタムボタンの機能を設定したり、送信機を調整したり、操作スティックモード（モード1、モード2、モード3、カスタムモード）を切り替えたり、送信機の詳細設定を設定したりできます。

ビギナー飛行チュートリアル：飛行チュートリアルを確認できます。

機体に接続：送信機と機体がリンクされていないときにタップすると、リンクを開始します。


• カメラ

カメラパラメーター設定：撮影モードに応じて、異なる設定を表示します。

一般設定：タップすると、ヒストグラム、露出オーバー警告、ピークレベル、グリッド線、ホワイトバランスの確認や設定を行います。

保存場所：タップして、microSDカードの容量とフォーマットを確認します。モバイル端末にHD写真を自動同期させたり、録画中にキャッシュを有効にしたり、最大動画キャッシュ容量の設定を調整したりすることもできます。


カメラ設定リセット：タップすると、カメラパラメーターがデフォルト設定に戻ります。

 • DJI RC送信機では、HD写真の自動同期機能に対応していません。

• 伝送

[ライブ配信プラットフォーム]を選択すると、カメラビューをリアルタイムで配信できます。

また、伝送設定で、周波数帯域とチャンネルモードを設定できます。

 • DJI RC送信機では、ライブ配信機能に対応していません。

• 詳細

端末情報、ファームウェア情報、アプリのバージョン、バッテリーのバージョンなどを表示します。

[すべての設定をリセット]をタップして、カメラ、ジンバル、安全性設定などをデフォルトにリセットします。

[すべてのデータをクリア]をタップすると、すべての設定をデフォルトにリセットし、フライトログを含む内部ストレージとmicroSDカードに保存されているすべてデータを削除します。補償を請求するときには、証拠（フライトログ）の提出を求められる場合があります。飛行中に事故が発生したときには、フライトログをクリアする前にDJIサポートにご連絡ください。

7. 撮影モード


静止画：シングル、48MP、AEB、タイマー撮影。

動画


クイックショット：ドローニー、ロケット、サークル、ヘリックス、ブーメランから選択します。

パノラマ：スフィア、180°、広角から選択します。

8. ランドスケープ／ポートレートモード切替ボタン

：タップすると、ランドスケープ（横向き撮影）とポートレート（縦向き撮影）のモードを切り替えます。ポートレートモードに切り替えると、カメラが90度回転し、縦向き動画や縦向き写真を撮影できます。

9. ズーム

：アイコンはズーム倍率を示しています。タップして、ズーム倍率を調整します。アイコンをタップしたまま長押しすると、ズームバーが展開され、バーをスライドするとズーム倍率を調整できます。

10. シャッター／録画ボタン

：タップすると、写真を撮影する、もしくは動画の録画を開始／停止します。

11. フォーカスボタン

AF / MF：アイコンをタップして、フォーカスモードを切り替えます。アイコンをタップしたまま長押しすると、フォーカスバーが展開され、バーをスライドするとカメラのフォーカスを調整できます。

12. 再生

▶：タップすると、再生画面に入り、撮影した写真や動画をすぐにプレビューできます。

13. カメラモード切り替え

AUTO：写真モードのときは、オートモードもしくはProモードから選択できます。パラメーターはモードごとに異なります。

14. 撮影パラメーター

RES&FPS EV 4K 30 +0.7：現在の撮影パラメーターを表示します。タップしてパラメーター設定にアクセスします。

15. microSDカード情報

ストレージ 1:30:30：現在のmicroSDカードの撮影可能枚数や録画可能時間を表示します。タップしてmicroSDカードの使用可能な容量を表示します。

16. フライトテレメトリ

H 150m：機体からホームポイントまでの垂直距離。

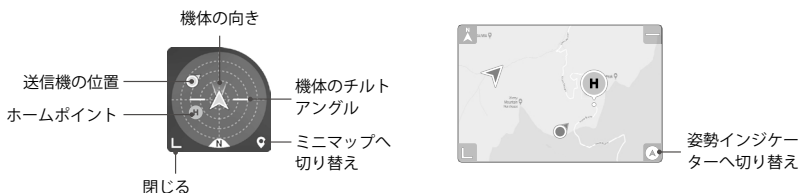
D 80m：機体からホームポイントまでの水平距離。

3m/s：機体の垂直速度。

5.6m/s：機体の水平速度。

17. 地図

📍：タップして姿勢インジケータに切り替えます。送信機の位置、ホームポイントの位置のほか、機体の方向やチルトアングルなどの情報を表示します。



18. 自動離陸／自動着陸／RTH

🛫：アイコンをタップします。プロンプトが表示され、ボタンを長押しすると、自動離陸や自動着陸が開始します。

🛬：タップするとスマートRTHプロセスが起動し、最後に記録されたホームポイントに機体を帰還させます。

19. 戻る

<：タップするとホーム画面に戻ります。

ジンバルの角度を調整するには、カメラビューの画面の任意の場所をタップして長押しすると、ジンバルの調整バーが表示され、バーをスライドして調整してください。

フォーカスまたはスポット測光を有効にするには、画面をタップしてください。フォーカスまたはスポット測光は、フォーカスモード、露出モード、スポット測光モードによって表示が異なります。スポット測光起動後、画面をタップして長押しすると、露出をロックします。露出のロック解除を行うには、画面をもう一度タップして長押しします。



- DJI Flyアプリを起動する前に、端末を完全に充電してください。
- DJI Flyの使用中は、モバイルデータ通信を使用します。データ使用料についてはお使いの通信会社にお問い合わせください。
- スマートフォンをディスプレイ機器として使用している場合は、飛行中に電話やメッセージを受けたりするなど、モバイル端末の機能を使用しないでください。
- 画面に表示される安全性に関するプロンプト、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連法規をすべて理解、順守して飛行する責任があります。
 - a) 自動離陸と自動着陸機能を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。
 - b) 初期状態の制限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - c) フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - d) GEO区域内またはその近くで出される警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - e) インテリジェント フライトモードを使用する前に、あらかじめ警告メッセージを読んで理解しておいてください。
- アプリ上で、着陸するように指示するプロンプトが表示された場合は、安全な場所にすぐに機体を着陸させてください。
- 各フライトの前にアプリに表示されているチェックリストの警告メッセージをすべて確認してください。
- これまでに機体の操作経験がない場合、または自信を持って機体を操作するのに十分な経験がない場合は、アプリのチュートリアルを使って、飛行技術を練習してください。
- 飛行を開始する前にインターネットに接続して、飛行予定地域の地図データをキャッシュしてください。
- このアプリの目的は、操作をアシストすることにあります。アプリに頼りすぎず、ご自身の裁量に基づいて機体を制御してください。アプリの使用は、DJI Flyの利用規約とDJIのプライバシーポリシーの対象となります。アプリでこれらをよくお読みください。

飛行

本セクションでは、安全な飛行方法と飛行に関する制限事項について説明します。

飛行

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行の練習を行っておくことをお勧めします。飛行は常に障害物のない開けた場所で実施してください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。本製品を安全に使用するために、飛行前に安全ガイドラインをお読みください。

飛行環境の条件

1. 風速10.7 m/s超のとき、雪、雨、霧などの悪天候時には、機体の操作をしないでください。
2. 飛行は周囲が開けた屋外でのみ行ってください。高い建物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスやGNSSシステムの精度に影響を及ぼす場合があります。そのため、バルコニーや、建物から10 m以内の場所からは離陸させないでください。飛行中は、建物から少なくとも10 m離れているようにしてください。離陸後、飛行を継続する前に、ホームポイントが更新されたという音声プロンプトの通知があったことを確認してください。機体が建物の近くで離陸した場合、ホームポイントの精度は保証されません。この場合、自動RTH中、機体の現在位置に細心の注意を払ってください。機体がホームポイントに接近したら、自動RTHをキャンセルし、機体を手動でコントロールして、適切な場所に機体を着陸させることを推奨します。
3. 障害物、人混み、高電圧の送電線、森林、および水域での飛行は避けてください（推奨の高さは水面から少なくとも3 mです）。
4. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
5. 高い高度で飛行する場合、機体とそのバッテリーの性能は制限されます。慎重に飛行してください。インテリジェント フライトバッテリーを使用して飛行する場合、機体の最大運用限界高度（海拔）は4,000 mです。インテリジェント フライトバッテリー Plusを使用する場合は、最大運用限界高度（海拔）は3,000 mに低下します。インテリジェント フライトバッテリーを使用した機体にプロペラガードが取り付けられている場合、最大運用限界高度（海拔）は1,500 mになります。
6. 南極圏、北極圏で機体のGNSSを使用することはできません。代わりにビジョンシステムを使用してください。
7. 車や船などの動いている物体から離陸させないでください。
8. 単色（全体が同一色）の表面や、車の屋根など反射の強い表面から離陸させないでください。
9. 発火や爆発の危険性のある場所で、機体を使用しないでください。
10. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐、塩水噴霧、菌類を伴う環境下では、機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブを使用しないでください。
11. 機体、送信機、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブは、乾いた環境で運用してください。
12. 鳥の群れ付近で機体を操作しないでください。

責任ある機体操作

深刻な怪我や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 麻酔、飲酒、服薬などの影響がないこと、めまい、疲労、吐き気などの症状がなく、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 着陸した場合、まず機体の電源を落としてから送信機の電源を切ります。
3. 建物、人体、動物に危険なペイロードを落下させたり、それらに向けて打ち上げ、発射したりしないでください。人的障害や物的損害が生じるおそれがあります。
4. 墜落した機体、または偶発的な損傷を受けた機体、または状態の悪い機体を使用しないでください。
5. 必ずトレーニングを十分に行い、緊急時または事故発生時のための緊急時対応計画を作成してください。
6. 必ず飛行計画を立ててください。機体を無謀に飛行させないでください。
7. カメラを使用するときは、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
8. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。
9. 本製品を、スパイ行為、軍事運用、不正捜査など、違法または不適切な目的のために使用しないでください。
10. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫、または他者のプライバシーの侵害や肖像権の侵害など法的権利を侵す行為に使用しないでください。
11. 他人の私有地に侵入しないでください。

飛行制限

GEO (Geospatial Environment Online)システム

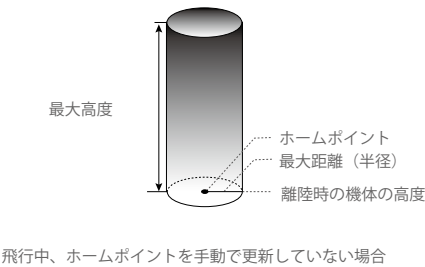
DJIのGEO (Geospatial Environment Online) システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域でのUAVの飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。その前に、ユーザーは目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出する必要があります。GEOシステムは、現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでの飛行のロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEOシステムについての詳細は、次のサイトをご覧ください：<https://www.dji.com/flysafe>

飛行制限

安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効になっており、ユーザーが機体を安全に使用できるようになっています。ユーザーは飛行制限の高度と距離を設定できます。GNSSが利用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO区域の機能が同時に働き、飛行安全性を管理します。GNSSが利用できない場合は、高度のみを制限できます。

飛行高度と距離制限

最大飛行高度は機体の飛行高度を制限し、最大飛行距離はホームポイント周辺の機体の飛行半径を制限します。飛行の安全性向上のため、DJI Flyアプリを使用してこれらの制限を設定できます。



GNSS有効時

	飛行制限	DJI Flyアプリ	機体ステータスインジケーター
最大高度	機体の高度が指定の値を超えることはできません	警告：高度制限に到達	緑色と赤色に交互に点滅
最大距離 (半径)	飛行距離は最大距離 (半径) 内であればなりません	警告：距離制限に到達	

GNSS信号が弱い場合

	飛行制限	DJI Flyアプリ	機体ステータスインジケーター
最大高度	GNSS信号が弱く、赤外線検知システムが作動している場合、高度は5 mに制限されます。 GNSS信号が弱く、赤外線検知システムが作動していない場合、高度は30 mに制限されます。	警告：高度制限に到達。	赤色と緑色に交互に点滅
最大距離 (半径)	最大距離 (半径) の制限が無効となり、アプリで警告プロンプトを受信できなくなります。		



- 機体の電源が入ったときにGNSS信号が弱以上である限り（白または黄色の信号バー）、飛行中にGNSS信号が弱くなっても、高度制限は生じません。
- 機体がGEO区域内でGNSS信号が弱いか全くない場合、機体ステータスインジケーターは12秒ごとに5秒間赤く点灯します。



- 機体が高度または飛行距離の制限に達した場合でも機体を制御することはできますが、それ以上速くには飛行できません。本機が最大距離（半径）の外へ飛行した場合、GNSS信号が強ければ自動で範囲内に戻ります。
- 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くで飛行しないでください。機体は、常に目視内で飛行させてください。

GEO区域

すべてのGEO区域は、DJI公式ウェブサイト<http://www.dji.com/flysafely>に一覧表示されています。GEO区域は異なるカテゴリ別に分類され、空港、有人飛行機が低空で操縦されている飛行場、国境、および発電所などの要注意区域が含まれています。機体がGEO区域に近づいている場合、DJI Flyにプロンプトが表示され、その区域での飛行に関して制限を受けます。


フライト前チェックリスト

- 送信機、モバイル端末、インテリジェント フライトバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
- ジンバル プロテクターが取り外されていることを確認してください。
- 機体のアームが展開していること確認を確認してください。
- インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラがしっかり取り付けられていることを確認してください。
- ジンバル&カメラが正常に機能することを確認してください。
- モーターの動きを妨げるものがなく、モーターが正常に機能することを確認してください。
- DJI Flyアプリが機体に正しく接続されていることを確認してください。
- すべてのカメラレンズとセンサーに汚れがないことを確認してください。
- DJIの純正部品またはDJIが認定する部品のみをご使用ください。非純正の部品やDJI認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性が損なわれるおそれがあります。
- DJI Flyで[障害物回避アクション]が設定されていること、最大飛行高度、最大飛行距離、RTH高度のすべてが現地の法律や規制に従って適切に設定されていることを確認してください。

自動離陸／自動着陸

自動離陸

自動離陸機能の使用：

- DJI Flyを起動して、カメラビューに入ります。
- フライト前チェックリストの手順をすべて完了します。
- をタップします。安全に離陸できる状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
- 機体は離陸し、地上約1.2 mの高さでホバリングします。

自動着陸

自動着陸機能の使用：

1. 着陸アイコンをタップします。着陸に安全な状態である場合は、ボタンを長押しして確定します。
2. 取消アイコンをタップすると自動着陸をキャンセルできます。
3. 下方ビジョンシステムの動作が正常であれば着陸保護が有効化されます。
4. 着陸後、モーターは自動で停止します。

⚠️ ・着陸に適切な場所を選択してください。

モーターの始動と停止

モーターの始動

以下に示すようにコンビネーション スティック コマンド（CSC）を実行して、モーターを始動させます。モーターの回転が始まったら、両方のスティックを同時に放します。

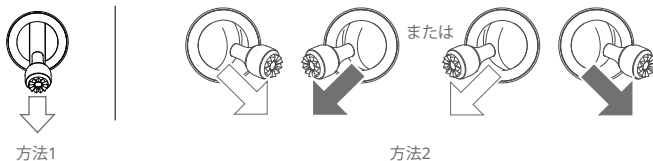


モーターの停止

機体が地上にあり、モーターが回転している場合、以下の2つの方法でモーターを停止できます。

方法1：スロットルスティックを下方方向に倒し続けます。モーターは1秒後に停止します。

方法2：モーターの始動時に使用した同じCSCコマンドを実行します。モーターは2秒後に停止します。



飛行中のモーター停止

飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。飛行中のモーター停止は、衝突が起きたり、機体が制御不能になって急上昇／急降下したり、空中でローリングしたりするなど緊急事態が発生した場合にのみ行ってください。飛行中にモーターを停止させるには、モーター始動時と同じCSCを実行します。モーターを停止する場合は、ユーザーがCSCコマンドを実行している間、操作スティックを2秒間倒し続ける必要があります。デフォルトの設定は、DJI Flyで変更できます。


飛行テスト

離陸／着陸手順

1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体の後面を自分の方を向くようにして機体を置きます。
2. 送信機と機体の電源を入れます。
3. DJI Flyを起動して、カメラビューに入ります。
4. 機体の自己診断が完了するまで待ちます。DJI Flyに異常な警告が表示されない場合は、モーターを始動できます。
5. スロットルスティックをゆっくり上に倒して、離陸させます。
6. 着陸させるには、平らな地面の上でホバリングし、ゆっくりスロットルスティックを下に倒して下降させます。
7. 着陸後、モーターは自動で停止します。
8. 送信機より先に機体の電源を切ります。

動画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、安全に飛行し、飛行中に動画を撮影できるようにすることにあります。各フライト前に、飛行前のチェックリストをすべて確認してください。
2. DJI Flyで目的のジンバル操作モードを選択してください。
3. ノーマルモードまたはシネモードで飛行する時に、写真や動画を撮影することをお勧めします。
4. 雨や風の強い日などの悪天候時には飛行させないでください。
5. ニーズに合ったカメラ設定を選択してください。
6. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
7. 操作スティックをゆっくり操作して、機体がスムーズで安定して動くようにしてください。

 • 離陸する前に、機体を平らで安定した地面に置いてください。手のひらから、または手で持ったまま機体を離陸させないでください。

付録

仕様

機体	248 g 機体の標準重量（DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー、プロペラ、microSDカードを含む）です。 実際の製品重量は、パッチ材料や外的要因により多少異なる場合があります。一部の国と地域では、登録は不要です。ご使用前に、現地の法律および規制をご確認ください。
離陸重量	DJI Mini 3 Pro用のインテリジェント フライトバッテリー Plusを使用すると、機体の重量は249 gを超過します（約290 gになります）。飛行前に、現地の法律および規制を確認し、順守してください。
サイズ（長さ×幅×高さ）	折りたたんだ状態（プロペラなし）：148×90×62 mm 展開した状態（プロペラあり）：251×362×72 mm
対角寸法	247 mm
最大上昇速度	Sモード：5 m/s Nモード：3 m/s Cモード：2 m/s
最大下降速度	Sモード：3.5 m/s Nモード：3 m/s Cモード：1.5 m/s
最大水平速度 （海拔に近接、無風）	Sモード：16 m/s Nモード：10 m/s Cモード：6 m/s
最大離陸高度（海拔）	インテリジェント フライトバッテリー使用時：4000 m インテリジェント フライトバッテリー Plus使用時：3000 m インテリジェント フライトバッテリーとプロペラガード装着時：1500 m
最大飛行時間	38分（インテリジェント フライトバッテリー使用時で、無風状態での飛行速度21.6 km/h） 51分（インテリジェント フライトバッテリー Plus使用時で、無風状態での飛行速度21.6 km/h）
最大ホバリング時間	33分（インテリジェント フライトバッテリー使用時で、無風状態） 44分（インテリジェント フライトバッテリー Plus使用時で、無風状態）
最大飛行距離	18 km（インテリジェント フライトバッテリー使用時で、無風状態の環境で飛行速度43.2 km/hで飛行中に測定） 25 km（インテリジェント フライトバッテリー Plus使用時で、無風状態の環境で飛行速度43.2 km/hで飛行中に測定）
最大風圧抵抗	10.7 m/s
最大傾斜角度	Sモード：40°（前方への飛行）、35°（後方への飛行） Nモード：25° Cモード：25°

最大角速度	Sモード：デフォルトで130°/s（DJI Flyでの調整可能範囲は20～250°/s）
	Nモード：デフォルトで75°/s（DJI Flyでの調整可能範囲は20～120°/s）
	Cモード：デフォルトで30°/s（DJI Flyでの調整可能範囲は20～60°/s）
動作環境温度	-10℃～40℃
GNSS	GPS + GLONASS + Galileo
ホバリング精度範囲	垂直：ビジョンポジショニング：±0.1 m、衛星測位システム：±0.5 m
	水平：ビジョンポジショニング：±0.3 m、衛星測位システム：±1.5 m
伝送	
映像伝送システム	O2
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、5.725～5.850 GHz（日本では2.400～2.4835 GHzのみ）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz：<26 dBm（FCC）、<20 dBm（CE/SRRC/MIC（日本））
	5.8 GHz：<26 dBm（FCC/SRRC）、<14 dBm（CE）
Wi-Fi	
プロトコル	802.11 a/b/g/n/ac
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、5.725～5.850 GHz（日本では2.400～2.4835 GHzのみ）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz：<19 dBm（FCC/CE/SRRC/MIC（日本））
	5.8 GHz：<20 dBm（FCC/SRRC）、<14 dBm（CE）
Bluetooth	
プロトコル	Bluetooth 5.2
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz
伝送電力（EIRP）	<8 dBm
ジンバル	
機械的可動範囲	チルト：-135°～+80°
	ロール：-135°～+45°
	パン：-30°～+30°
操作可能範囲	チルト：-90°～+60°
	ロール：0°または-90°（ランドスケープまたはポートレート）
安定化機構	3軸（チルト、ロール、パン）
最大制御速度（チルト）	100°/s
角度ぶれ範囲	±0.01°
検知システム	
下方ビジョンシステム	高精度ホバリング範囲：0.5 m～10 m
動作環境	拡散反射表面（>20%）で、反射のない識別可能な地面：適切な明るさのある状態（15ルクス超）
カメラ	
イメージセンサー	1/1.3インチCMOS、有効画素数：48 MP

レンズ	FOV：82.1° 焦点距離：24 mm（35mm判換算） 絞り：f/1.7 撮影範囲：1 m～∞
ISO	動画：100～3200 静止画：100～3200
電子シャッター速度	1/8000～2秒
最大静止画サイズ	4000×3000
静止画モードとパラメーター	シングル：12 MP 48MP：48MP インターバル撮影：12 MP 2/3/5/7/10/15/20/30/60秒 (JPEG) 5/7/10/15/20/30/60秒 (JPEG+RAW) オート露出ブラケット（AEB）：12 MP、3ブラケットフレーム （0.7EVステップ） パノラマ：スフィア、180°、広角 HDRモード：シングル撮影モード時、HDRに対応
写真フォーマット	JPEG／DNG（RAW）
動画解像度	4K：3840×2160@24/25/30 fps 2.7K：2720×1530@24/25/30/48/50/60 fps FHD：1920×1080@24/25/30/48/50/60 fps HDRモード：24/25/30 fpsで撮影時、HDRに対応
動画フォーマット	MP4 (H.264)
最大動画ビットレート	100 Mbps
対応ファイルシステム	FAT32 (≤ 32GB) exFAT (> 32 GB)
デジタルズーム	4K：2倍 2.7K：3倍 FHD：4倍
DJI RC-N1 送信機（モデル：RC231）	
伝送	
映像伝送システム	異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、DJI RC-N1送信機は、該当するファームウェアバージョンを自動で選択・更新します。DJI Mini 3とリンクすると、O2伝送技術に対応します。
ライブビュー品質	720p/30fps
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、5.725～5.850 GHz（日本では2.400～2.4835 GHzのみ）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz：<26 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：<26 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE) 10 km (FCC)、6 km (CE/SRRC/MIC（日本）)
最大伝送距離（障害物や干渉がない場合）	データは、干渉のない開けた場所で、異なる基準でテストされます。RTHを考慮せずに実施された、片道の飛行距離の最大値となり、あくまで参照用です。実際の飛行では、DJI FlyアプリのRTHプロンプトにご注意ください。

伝送距離（一般的な使用場面、FCC規格準拠時）	強い干渉（例：市内中心部）：約1.5～3 km 中程度の干渉（例：郊外、小さな町）：約3～6 km 干渉なし（例：農村地域、ビーチ）：約6～10 km データは、FCC規格に準拠し、開けた場所で、様々な干渉信号のレベルでテストされます。このデータはあくまで参考用です。 実際の飛行では、DJI FlyアプリのRTHプロンプトにご注意ください。
一般	
動作環境温度	-10℃～40℃
バッテリー容量	5200 mAh
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
動作電流／電圧	1200 mA@3.6 V（Android端末の場合） 700 mA@3.6 V（iOS端末の場合）
対応モバイル端末サイズ	180×86×10 mm（高さ×幅×厚さ）
対応USBポートの種類	Lightning、Micro USB（Type B）、USB-C
最大バッテリー駆動時間	6時間（モバイル端末を1台も充電していない場合） 4時間（モバイル端末を1台充電している場合）
DJI RC送信機（モデル：RM330）	
伝送	
映像伝送システム	異なるハードウェア機器構成の機体とを使用する場合、DJI RC送信機は、該当するファームウェアバージョンを自動で選択・更新します。DJI Mini 3とリンクすると、O2伝送技術に対応します。
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、5.725～5.850 GHz（日本では2.400～2.4835 GHzのみ）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz：<26 dBm（FCC）、<20 dBm（CE/SRRC/MIC（日本）） 5.8 GHz：<26 dBm（FCC）、<23 dBm（SRRC）、<14 dBm（CE） 10 km（FCC）、6 km（CE/SRRC/MIC（日本））
最大伝送距離（障害物や干渉がない場合）	データは、干渉のない開けた場所で、異なる基準でテストされます。RTHを考慮せずに実施された、片道の飛行距離の最大値となり、あくまで参照用です。実際の飛行では、DJI FlyアプリのRTHプロンプトにご注意ください。
伝送距離（一般的な使用場面、FCC規格準拠時）	強い干渉（例：市内中心部）：1.5～3 km 中程度の干渉（例：郊外、小さな町）：3～6 km 干渉なし（例：農村地域、ビーチ）：6～10 km データは、FCC規格に準拠し、開けた場所で、様々な干渉信号のレベルでテストされます。このデータはあくまで参考用です。 実際の飛行では、DJI FlyアプリのRTHプロンプトにご注意ください。
Wi-Fi	
プロトコル	802.11a/b/g/n
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、5.150～5.250 GHz、5.725～5.850 GHz（日本国内では、5.8 GHz帯は使用不可）
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz：<23 dBm（FCC）、<20 dBm（CE/SRRC/MIC（日本）） 5.1 GHz：<23 dBm（FCC/CE/SRRC/MIC（日本）） 5.8 GHz：<23 dBm（FCC/SRRC）、<14 dBm（CE）

Bluetooth	
プロトコル	Bluetooth 4.2
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<10 dBm
一般	
動作環境温度	-10℃～40℃
GNSS	GPS + BeiDou + Galileo
バッテリー容量	5200 mAh
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
動作電流／電圧	1250 mA@3.6 V
最大バッテリー駆動時間	約4時間
ストレージ容量	対応する microSD カード
DJI RC送信機対応の microSD カード	UHS-I スピードクラス3の microSD カード
DJI RC送信機推奨 microSD カード	SanDisk Extreme 64GB V30 A1 microSDXC SanDisk Extreme 128GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 512GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 64GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 400GB V30 A2 microSDXC SanDisk High Endurance 64GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 256GB V30 microSDXC Kingston Canvas Go!Plus 64GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go!Plus 256GB V30 A2 microSDXC Lexar High Endurance 64GB V30 microSDXC Lexar High Endurance 128GB V30 microSDXC Lexar 633x 256GB V30 A1 microSDXC Lexar 1066x 64GB V30 A2 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB microSDXC
インテリジェント フライトバッテリー	
バッテリー容量	2453 mAh
標準電圧	7.38 V
最大充電電圧	8.5 V
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
電力量	18.10 Wh
重量	約80.5 g
充電温度範囲	5℃～40℃
充電時間	64分 (DJI 30W USB-C充電器を使用し、バッテリーが機体に取り付けられている状態) 56分 (DJI 30W USB-C充電器を使用し、バッテリーをDJI Mini 3 Pro用の2WAY 充電ハブに挿入している状態)

推奨充電器	DJI 30W USB-C充電器またはその他USB PD規格対応充電器 (30 W) 機体に取り付けられている状態のバッテリーを充電する、もしくは DJI Mini 3 Pro用の2WAY 充電ハブに挿入している状態のバッテリー を充電する場合、最大充電電力は30 Wです。
インテリジェント フライトバッテリー Plus	
バッテリー容量	3850 mAh
標準電圧	7.38 V
最大充電電圧	8.5 V
バッテリータイプ	Li-ion
材料	LiNiMnCoO2
電力量	28.4 Wh
重量	約121 g
充電温度範囲	5℃～40℃
充電時間	101分 (DJI 30W USB-C充電器を使用し、バッテリーが機体に取り 付けられている状態) 78分 (DJI 30W USB-C充電器を使用し、バッテリーをDJI Mini 3 Pro用の2WAY 充電ハブに挿入している状態)
推奨充電器	DJI 30W USB-C充電器またはその他USB PD規格対応充電器 (30 W) 機体に取り付けられている状態のバッテリーを充電する、もしくは DJI Mini 3 Pro用の2WAY 充電ハブに挿入している状態のバッテリー を充電する場合、最大充電電力は30 Wです。
2WAY 充電ハブ	
入力	USB-C : 5V = 3A、9V = 3A、12V = 3A
出力	USB : 5V = 2A
定格出力	30 W
充電タイプ	3つのバッテリーを順番に充電
充電温度範囲	5℃～40℃
対応バッテリー	DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー (BWX162- 2453-7.38) DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー Plus (BWX162-3850-7.38)
アプリ	
名称	DJI Fly
OS要件	iOS v11.0以降、Android v7.0以降
ストレージ	
機体に対応するmicroSDカー ド	UHS-I スピードクラス3のmicroSDカード

機体推奨microSDカード

SanDisk Extreme 32GB V30 A1 microSDXC
SanDisk Extreme 64GB V30 A1 microSDXC
SanDisk Extreme 128GB V30 A2 microSDXC
SanDisk Extreme 256GB V30 A2 microSDXC
SanDisk Extreme Pro 32GB V30 A1 microSDXC
Kingston Canvas Go!Plus 64GB V30 A2 microSDXC
Kingston Canvas Go!Plus 256GB V30 A2 microSDXC
Kingston Canvas React Plus 64GB V30 A1 microSDXC
Kingston Canvas React Plus 128GB V30 A1 microSDXC
Samsung Pro Plus 256GB V30 A2 microSDXC

- ⚠
- 撮影モードに応じて、ISO感度も異なる場合があります。DJI Flyの様々な撮影モードについては、実際に調整可能なISO感度を確認してください。
 - 以下の条件下では、シングル撮影モードで撮影した写真にHDR効果はありません。
 - a) 機体が動いている時、または強風により機体の安定性に影響がある時。
 - b) ホワイトバランスがマニュアルモードに設定されている時。
 - c) カメラが自動モードで、EV設定が手動で調整されている時。
 - d) カメラが自動モードで、AEロックがオンの時。
 - e) カメラがProモードの時。

互換性

互換性のある製品については、次のウェブサイトをご覧ください。
<https://www.dji.com/mini-3/faq>

ファームウェア更新

機体と送信機のファームウェアを更新するには、DJI FlyまたはDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

DJI Flyの使用

機体や送信機をDJI Flyに接続したときに新しいファームウェア更新がある場合、通知がされます。更新を開始するには、送信機またはモバイル端末をインターネットに接続して画面上の指示に従います。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。インターネット接続が必要となります。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）で、機体と送信機のファームウェアを、それぞれ別々に更新できます。

以下の指示に従って機体ファームウェアを更新してください。

1. お使いのパソコンでDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
2. 機体の電源を入れて、20秒以内にパソコンのUSB-Cポートに機体を接続します。
3. DJI Mini 3を選択し、[ファームウェア更新]をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

送信機ファームウェアの更新を行うには、以下の手順に従ってください。

1. お使いのパソコンでDJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
2. 送信機の電源を入れ、USB-Cポート経由でパソコンに接続します。
3. 対応する送信機を選択し、[ファームウェア更新]をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了するまで待ちます。

- △ • 必ず記載されている全ての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。
- ファームウェアの更新には約10分かかります。ジンバルが遅れて動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動しますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでお待ちください。
 - 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
 - 更新を実行する前に、インテリジェント フライトバッテリーと送信機のバッテリー残量が両方とも20%以上あることを確認してください。
 - 更新中はUSB-Cケーブルの接続を外さないでください。

トレーサビリティに関するファームウェア更新情報の詳細については、以下のリンクにアクセスして、DJI Mini 3リリースノートを参照してください。

<https://www.dji.com/mini-3/downloads>

フライト後チェックリスト

- 機体、送信機、ジンバルカメラ、インテリジェント フライトバッテリー、プロペラが良好な状態であることを、必ず目視で確認してください。損傷が見られる場合は、DJI サポートにお問い合わせください。
- カメラレンズとビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
- 機体を持ち運ぶことも踏まえて、正しく保管してください。

メンテナンスについての指示

子供や動物への深刻な傷害を避けるために、次の規則を守ってください。

- ケーブルやストラップなどの小さい部品は、飲み込むと危険です。すべての部品を子供やペットの手の届かない場所に保管してください。
- 内蔵のLiPoバッテリーが過熱しないように、インテリジェント フライトバッテリーと送信機は直射日光の当たらない涼しく乾燥した場所に保管してください。3か月以上の期間にわたって保管する場合は、22℃～28℃の保管環境温度を推奨します。温度が-10℃～45℃の範囲の環境以外では保管しないでください。
- カメラを、水などの液体に接触させたり、浸したりしないでください。万が一濡れた場合は、柔らかく吸収性の高い布で拭いて、乾かしてください。落下し浸水した機体の電源を入れると、構成部品が完全に損傷する恐れがあります。アルコール／ベンジン／シンナーなどの可燃性物質を含む物質を用いて、カメラを清掃したりメンテナンスしたりしないでください。湿気や埃の多い場所にカメラを保管しないでください。
- 本製品をバージョン3.0より古いUSBインターフェースに接続しないでください。本製品を「Power USB」や類似のデバイスに接続しないでください。
- 墜落や深刻な衝撃を受けた場合は、機体の各部を確認してください。問題やご質問がある場合は、DJI正規代理店にご相談ください。
- バッテリー残量インジケータを定期的に確認して、現在のバッテリー残量とバッテリー駆動時間を確認してください。バッテリーの定格は200充電サイクルです。この回数を超える使用は、推奨していません。
- 電源オフ時には、必ずアームを折りたたんだ状態で機体を輸送するようにしてください。
- 電源オフ時には、必ずアンテナを折りたたんだ状態で送信機を輸送するようにしてください。
- 長期間保管すると、バッテリーはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するには、バッテリーを充電してください。
- 露光時間を長くする場合、NDフィルターを使用してください。NDフィルターの取り付け方法については、製品情報を参照してください。
- 機体、送信機、バッテリー、充電器の保管や輸送は、乾燥した環境で行ってください。製品の保管・輸送は、周囲温度15℃～25℃、湿度40%程度の環境で行うことをお勧めします。
- 機体を整備する前に、バッテリーを取り外してください（清掃、またはプロペラの取り付けや取り外しなど）。機体やプロペラに泥や埃がついている場合、必ず柔らかい布で清掃して取り除いてください。濡れた布やアルコール分を含んだ洗浄剤を使用して、機体を清掃しないでください。液体が機体のハウジングに侵入し、短絡や電子部品破損の原因となります。
- プロペラの交換や点検時にはバッテリーの電源を切ってください。

トラブルシューティングの手順

1. 初回飛行前に、バッテリーが使用できませんが、なぜでしょうか？
初回飛行前にバッテリーを充電して、バッテリーをアクティベーションする必要があります。
2. 飛行中、ジンバルのドリフト問題が起きる場合、どのように解決すればよいですか？
DJI Flyアプリで、IMUとコンパスをキャリブレーションしてください。問題が解決しない場合、DJIサポートにお問い合わせください。
3. 機能しません
充電によって、インテリジェント フライトバッテリーと送信機がアクティベーションされているかを確認してください。問題が解決しない場合、DJI サポートにお問い合わせください。
4. 電源投入と起動に関する問題
バッテリーから電源供給されているかを確認してください。電源供給されていても正常に起動しない場合は、DJI サポートまでお問合せください。
5. ソフトウェア更新の問題
ユーザーマニュアルの指示に従って、ファームウェアを更新してください。ファームウェア更新が失敗した場合は、すべてのデバイスを再起動してから再試行してください。問題が解決しない場合、DJIサポートにお問い合わせください。
6. 工場出荷時のデフォルト、あるいは最後に確認された正常動作構成にリセットする手順
DJI Flyアプリを使用して工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
7. シャットダウンおよび電源オフの問題
DJIサポートにお問い合わせください。
8. 不注意な取り扱いや安全性に問題のある状態での保管を検知する方法
DJIサポートにお問い合わせください。

リスクと警告

電源を入れた後、機体が何かしら危険を検知すると、DJI Flyアプリに警告プロンプトが表示されます。

以下に記載している状況に注意してください。

1. その場所が離陸に適していない場合。
2. 飛行中に障害物を検出した場合。
3. その場所が着陸に適していない場合。
4. コンパスまたはIMUが干渉に影響され、キャリブレーションの必要がある場合。
5. プロンプトが表示されたら画面上の指示に従います。

廃棄処分について



機体や送信機を廃棄するときには、電子機器に関する現地の規制を順守してください。

バッテリーの廃棄

バッテリーを廃棄する際は、完全に放電してから、指定のリサイクル容器に入れて廃棄してください。バッテリーを普通のごみ容器に捨てないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

バッテリーの過放電後、電源が入らない場合は、直ちにバッテリーを廃棄してください。

インテリジェント フライトバッテリーの電源ボタンが不能になり電源のオンオフができなくなり、バッテリーを完全に放電できない場合は、バッテリーの廃棄業者もしくはリサイクル業者に問い合わせて、サポートを受けてください。

C0認証

DJI Mini 3（モデル：MT3PD、MT3PDCE）はC0認証の要件に準拠しています。DJI Mini 3を欧州経済領域（EEA、すなわち欧州連合とノルウェー、アイスランド、リヒテンシュタイン）で使用する場合、一部の要件や規制が適用されます。DJI Mini 3とその類似製品は、モデル番号によって区別できます。

UASクラス	C0
最大プロペラ速度	11500 RPM

MTOMについて

DJI Mini 3の機体はクアドローター型です。DJI Mini 3の最大離陸質量（MTOM）（モデル:MT3PD、MT3PDCE）は、DJI Mini 3 Proインテリジェント フライトバッテリー、プロペラ、microSDカードを含めて248 gで、C0要件に適合しています。

MTOM C0要件に適合するためには、以下の指示に従う必要があります。従わない場合は、機体はC0機体として使用することができません。

1. 「認定アクセサリーを含む品目一覧」セクションに記載されている品目を除き、機体にいかなるペイロードも追加しない。
2. プロペラ、インテリジェント フライトバッテリーなどで、適用条件を満たしていない交換部品は使用しない。
3. 機体を改造しない。

認定アクセサリーを含む品目一覧

項目	モデル番号	寸法	重量
DJI Mini 3プロペラ	MT3PD-PPS	152.4 × 76.2 mm (直径 × ねじ山ピッチ)	0.9 g (各ピース)
DJI Mini 3 Pro インテリ ジェント フライトバッテ リー	BWX162-2453-7.38	85 × 50 × 30 mm	約80.5 g
DJI Mini 3 Pro NDフィル ターセット (ND 16/64/256) *	MT3M3VD-NDFS	21.4 × 17 × 3.9 mm	0.75 g (単品)
microSDカード*	該当なし	15 × 11 × 1.0 mm	約0.3 g

* 製品パッケージには同梱されていません。
DJI Mini 3シリーズ NDフィルターセットの取り付け方法と使用方法については、製品情報を参照してください。

予備部品と交換部品のリスト

- 1. DJI Mini 3プロペラ
- 2. DJI Mini 3 Pro インテリジェント フライトバッテリー

セーフガードの一覧

以下は、DJI Mini 3のメカニカルセーフガードと操作セーフガードの一覧です。

- 1. 緊急事態が発生した場合に、コンビネーション スティックコマンド (CSC) を実行してプロペラを停止できます。詳細については、「モーターの始動／停止」セクションを参照してください。
- 2. Return-to-Home (RTH) 機能。詳細については、「Return-to-Home」セクションを参照してください。
- 3. ビジョンシステムおよび赤外線検知システム。詳細については、「ビジョンシステムおよび赤外線検知システム」のセクションを参照してください。
- 4. DJIのGEOシステムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供し、制限空域でのUAVの飛行を防止します。詳細については、「飛行制限」のセクションを参照してください。

EASA通知

ご使用前に同梱のドローン情報通知書を必ずお読みください。
トレーサビリティに関するEASA通知の詳細については、以下のリンクをご覧ください。
<https://www.easa.europa.eu/en/document-library/general-publications/drones-information-notices>

説明書の提供元

本マニュアルはSZ DJI Technology, Inc.から提供されたもので、内容は変更される場合があります。
住所：Lobby of T2, DJI Sky City, No. 53 Xianyuan Road, Xili Community, Xili Street, Nanshan District, Shenzhen, China, 518055.

アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、以下のサイトでご確認ください：
<https://www.dji.com/support>



連絡先
DJI サポート

<http://www.dji.com/support>

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください

<http://www.dji.com/mini-3>

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信してDJIまでお問い合わせください。**DocSupport@dji.com**

DJI は、DJIの商標です。

Copyright © 2024 DJI All Rights Reserved.